



**車いす仕様車(スロープタイプⅠ)
ウェルキャブ 車いす仕様車(スロープタイプⅠ・Ⅱ)
取 扱 書**

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

**NOAH
VOXY**



1 安全・安心のために

お客様に必ずお読みいただきたいこと

2 シート・室内装備

シート・室内装備に関する説明

3 車いすの車内外への乗り降り

スロープを使用して車いすに乗ったまでの車内外への乗降、車いすの車内での固定・解除に関する説明

4 お手入れのしかた

ウェルキャブ装備のお手入れに関する説明

5 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

6 点検・整備項目

定期点検整備についての説明

イラスト目次	4
本書の見方	10

1 安全・安心のために

1-1. 安全なドライブのために	
車いすの車内外への 乗降について	12
車いすの固定およびシート ベルトの着用について	20
車両火災・故障・損傷を 防ぐために	23

2 シート・室内装備

2-1. シート	
セカンド・サードシート	26
2-2. 室内装備	
収納装備一覧	32
アクセサリーコンセント (AC100V 1500W)	34

3 車いすの車内外への乗り降り

3-1. スロープを使用する前に	
ご使用前に確認して いただきたいこと	36
3-2. 車いすの車内外への 乗降・固定	
操作の流れ	41
作動条件の確認	47
車高調整およびスロープの 展開・格納	48
車いすの車内外への乗降	65
車いすの車内での 固定・解除	88
車いす用シートベルト	95
走行する前に	105

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた	
スロープの清掃	108
ベルトの清掃	110
車いす固定装置の清掃	111
4-2. 簡単な点検・部品交換	
ガレージジャッキ	112

5 万一の場合には

- 5-1. パンクしたときは
工具・ジャッキの取り出し 114
- 5-2. 故障かな?と
お考えになる前に
 - ヒューズの交換 119
 - 車高降下装置が
作動しないときは 122
 - ワイヤレスリモコンの電池交換
(電動ウインチ装着車) 123
- 5-3. 緊急時の対処法
 - セーフティベルトが引き出せ
ない・後退防止作動しない
ときは (セーフティベルト
装着車) 126
 - 電動ウインチが作動しないときは
(電動ウインチ装着車) 128
 - 車いす固定装置が
作動しないときは 131

6 点検・整備項目

- 6-1. 点検・整備項目
 - 定期点検整備 134
- さくいん**
 - こんなときは
(症状別さくいん) 138
 - 五十音順さくいん 144

本書は、車いす仕様車（スロープタイプI・II）の装備について記載しています。車両全体の取り扱い方法や注意事項などは、必ず別冊の標準車取扱書をお読みください。

ただし、車いす仕様車（スロープタイプI・II）装備により、お車と標準車取扱書の仕様や機能が一致しない場合がありますのでご了承ください。

1

2

3

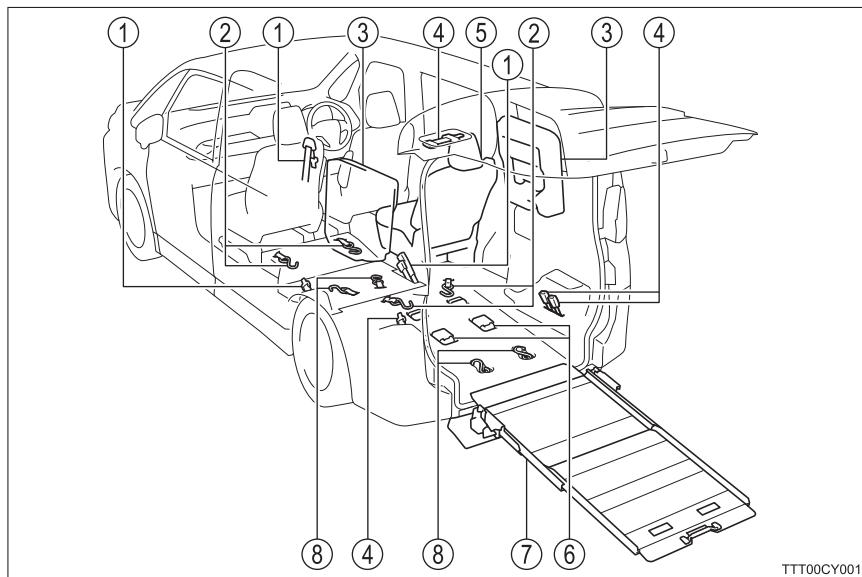
4

5

6

イラスト目次

■ タイプ I



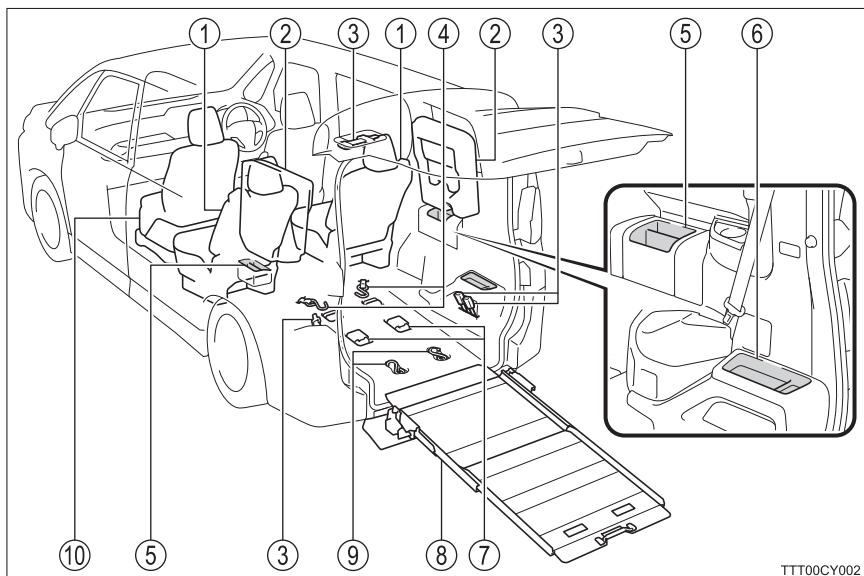
① 車いす用シートベルト（車いす前席用）	P.95
車いす前席での着用	P.96
清掃	P.110
② セーフティベルト★※	
車いすの車内への乗り入れ	P.67
車いすの車外への降車	P.74
作動条件	P.47
清掃	P.110
作動しないときは	P.126
電動ウインチ★※	
車いすの車内への乗り入れ	P.67
車いすの車外への降車	P.74
作動条件	P.47
清掃	P.110
作動しないときは	P.126

③ サードシート	P.26
④ 車いす用シートベルト（車いす後席用）＊	P.95
車いす後席での着用	P.98
清掃	P.110
⑤ セカンドシート	P.26
⑥ 床面ロック	P.28
⑦ スロープ	
展開	P.49
格納	P.50
スロープ前倒れ機構	P.52
清掃	P.108
⑧ 車いす固定装置＊	
車いすの固定	P.88
車いすの固定解除	P.91
作動条件	P.47
清掃	P.110, 111
作動しないときは	P.131

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

＊：車いす後席用のセーフティベルト／電動ウインチ、車いす用シートベルトおよび車いす固定装置は、車いす2名仕様に装備されます。

■ タイプII



① セカンドシート※ ¹	P.26
② サードシート（タイプII “サードシート付”）	P.26
③ 車いす用シートベルト	P.95
着用	P.98
清掃	P.110
④ セーフティベルト★	
車いすの車内への乗り入れ	P.67
車いすの車外への降車	P.74
作動条件	P.47
清掃	P.110
作動しないときは	P.126
電動ウインチ★	
車いすの車内への乗り入れ	P.67
車いすの車外への降車	P.74
作動条件	P.47
清掃	P.110
作動しないときは	P.126
⑤ デッキポケット（タイプII “サードシート無”）	P.32

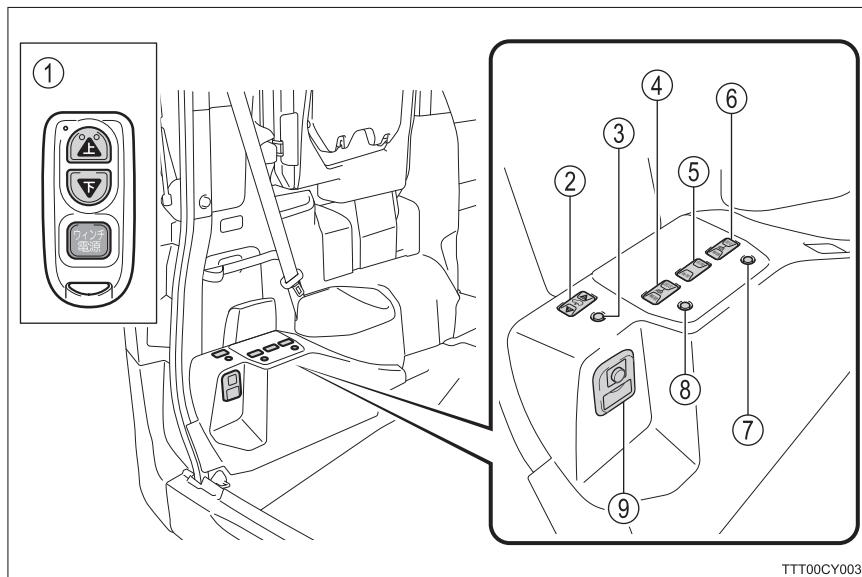
⑥ ジャッキカバートレイ	P.32
⑦ 床面ロック	P.28
⑧ スロープ	
展開	P.49
格納	P.50
スロープ前倒れ機構	P.52
清掃	P.108
⑨ 車いす固定装置	
車いすの固定	P.88
車いすの固定解除	P.91
作動条件	P.47
清掃	P.111
作動しないときは	P.131
⑩ 助手席リフトアップチルトシート★※2	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1：1人掛けキャブテンシートまたは、3人掛けチップアップシートがあります。

※2：別冊「ウェルキャブ 助手席リフトアップチルトシート車取扱書」を参照してください。

■車内左側後部



TTT00CY003

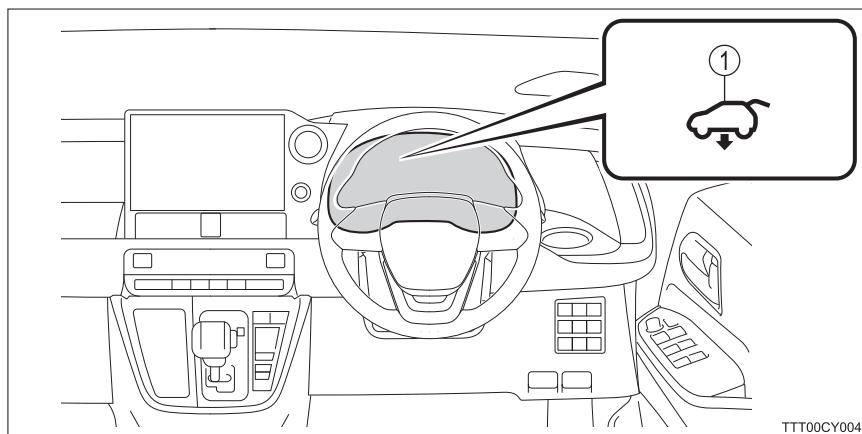
① ワイヤレスリモコン※ ¹	P.66
車内への乗り入れ	P.67
車外への降車	P.74
電池交換	P.123
② 車高切替スイッチ	
作動条件	P.47
車高降下	P.48
車高復帰	P.50
作動しないときは	P.122
③ 車高降下装置異常ランプ	P.57
④ 固定・解除スイッチ（車いす後席用）※ ²	P.69, 74, 89, 91

※¹：電動ワインチ装着車に装備されます。

※²：タイプI（車いす2名仕様）／タイプIIに装備されます。

- ⑤ 前席・後席切替スイッチ※³ P.68, 69
- ⑥ 固定・解除スイッチ（車いす前席用）※⁴ P.67, 74, 89, 91
- ⑦ 固定・解除スイッチインジケーター
(車いす前席用) ※⁴ P.67, 74, 89, 91
- ⑧ 固定・解除スイッチインジケーター
(車いす後席用) ※⁵ P.69, 74, 89, 91
- ⑨ アクセサリーコンセント★ P.34

■ 運転席まわり



- ① 車高調整インジケーター P.48 ~ 51, 55, 57, 58, 121

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※³：タイプI（車いす2名仕様）に装備されます。

※⁴：タイプIに装備されます。

※⁵：タイプI（車いす2名仕様）／タイプIIに装備されます。

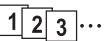
本書の見方



警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



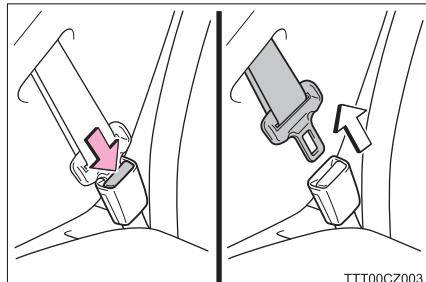
注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

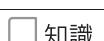
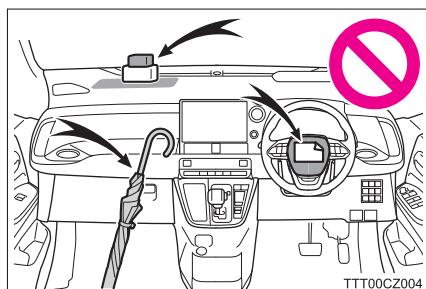
➡️ 押す・まわすなど、していたい操作を示しています。

➡️ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡️ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

🚫 “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知つておくと便利なことを説明しています。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全なドライブのために

車いすの車内外への 乗降について.....	12
車いすの固定およびシート ベルトの着用について	20
車両火災・故障・損傷を 防ぐために	23

車いすの車内外への乗降について

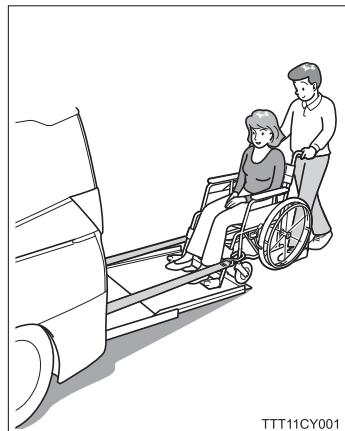
- 本書における車いす仕様車（スロープタイプⅠ・Ⅱ）の操作はすべて介助の方が行ってください。
- この項目では、スロープおよびセーフティベルト★または電動ウインチ★を使用しての車内外への乗降について、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

▲警告

■車いす仕様車（スロープタイプⅠ・Ⅱ）の操作をするときは

操作はすべて介助の方が行い、車いす乗車の方に合図し、安全に十分注意しながら行ってください。

- 車いす乗車の方が操作すると、手足を挟まれたり、車いすがスロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 急に車いすの乗降を行うと、車いすが転倒するおそれがあり危険です。（車いすを車外に降ろすときは特にご注意ください）
- 車内を移動するときは、車いす乗車の方の手足や腕がシートなどに挟まれないように注意してください。



TTT11CY001

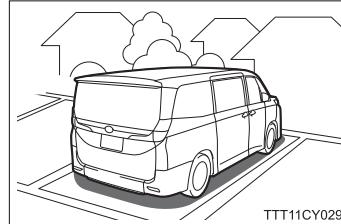
⚠ 警告

■操作および車いすを乗降するときは

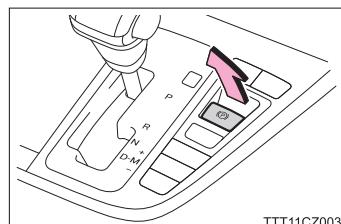
安全で平坦な場所に駐車してください。

交通量の多い道路や狭いところ、不整地や傾斜地でスロープを使用すると、思わぬ事故や車両の損傷につながるおそれがあり危険です。

- 平坦な場所で操作

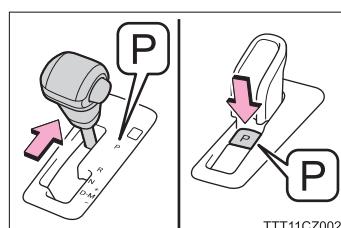


- パーキングブレーキを確実にかける



- シフトレバー／シフトポジションを P の位置にする

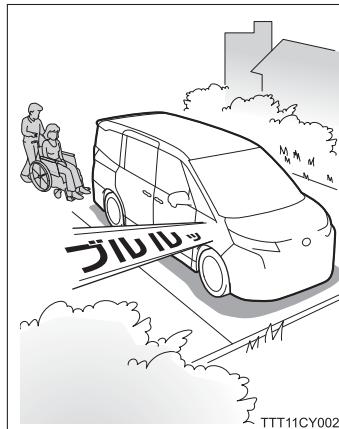
パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P の位置にしたときに、自動でパーキングブレーキがかかります。（→標準車取扱書の「運転のしかた」）



⚠ 警告

● エンジンをかけた状態（ハイブリッドシステムを作動状態）で使用してください。

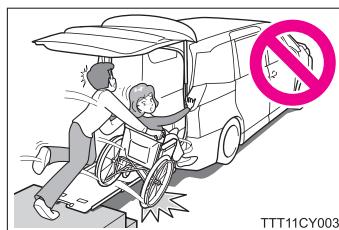
- ・ エンジン（ハイブリッドシステム）停止状態ではバッテリーあがりの原因になったり、十分な性能を引き出せないおそれがあります。
- ・ エンジン（ハイブリッドシステム）停止状態では車高降下装置は作動しません。



● 乗降するときはヘッドライトを点灯および非常点滅灯を点滅させ、周囲へ注意をうながしてください。

● 階段や段差を利用して車いすの乗り入れをしないでください。

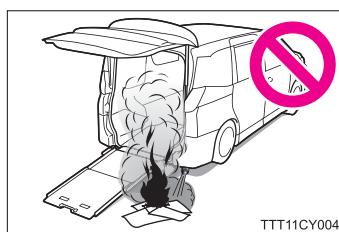
段差を利用すると車いすがスロープから転落したり、スロープが段差からはずれて破損するなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。



● 可燃物付近に駐車しないでください。

車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災になるおそれがあり危険です。

スロープ使用時、車高降下により排気管の位置が大きく下がりますので、特にご注意ください。



⚠ 警告

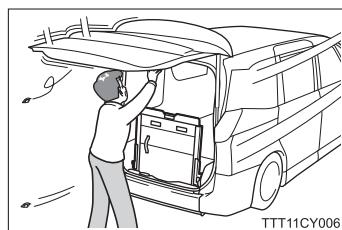
- 悪天候時、スロープを使用するときは、すべりやすくなりますのでご注意ください。

風の強い場所や風雨の強い日、降雨時や降雪時などは特に注意してください。



- 強風時、バックドアが閉まることがあります。

バックドアが頭にあたるおそれがありますので、注意してください。



■車高を下げる前に

- 車両周辺・下側、バックドア下側や後輪付近に人や突起物などがないことを確認してください。

車両後部の車高が下がるため（バックドアも車高に合わせて下がります）、頭を打ったり、手足を挟むなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

車両を損傷するおそれもあります。

また、バックドア連動モード時は、特にご注意ください。

バックドアを開けると自動で車高が降下し、車両と突起物があたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車高調整および助手席リフトアップチルトシートを同時に作動させないでください。（助手席リフトアップチルトシート装着車）

車両後部の車高が下がるため、助手席リフトアップチルトシートからの転落やシートが地面と接触するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



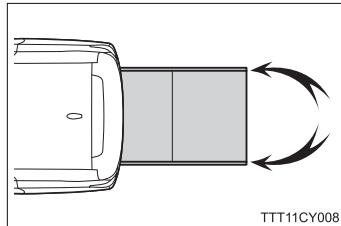
■不測の事態により車高降下を途中でやめたいときは

車高降下装置の作動途中で、車高切替スイッチの「上」を押すと、ただちに車高降下が停止し、復帰（上昇）します。

⚠ 警告

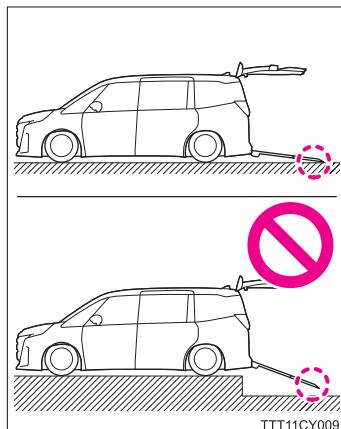
■スロープに車いすを乗降するときは

- スロープに乗降するときは、足元および車いすの車輪がスロープ端部より出ないように注意してください。
スロープ端部より出ると、スロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

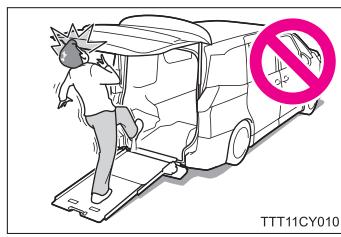


- 車高降下装置による車高降下およびスロープ展開完了後、スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。

段差やスロープ下部にものがあるなどにより、スロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏みはずして転倒したり、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれもあります。



- 頭上の安全を確認しながらゆっくり乗り入れ、頭をバックドアやドア開口部にあてないように注意してください。
(→ P.38)



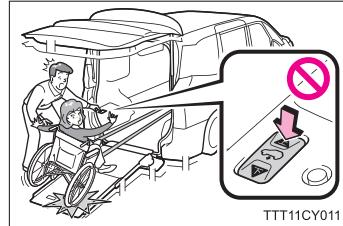
⚠ 警告

- 不要なスイッチ類の操作およびシフトレバー／シフトポジションを操作しないでください。

装置の不意な作動により、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▶ 車高切替スイッチ

車高切替スイッチの「上」を押すと、車高が復帰するため、スロープの角度がかわります。

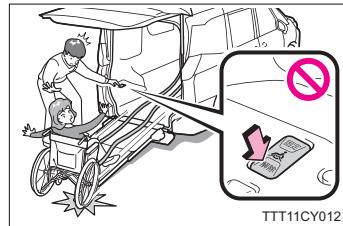


▶ 車高自動復帰

車高降下中、または車高降下完了後にシフトレバー／シフトポジションを P 以外の位置にした場合車高が自動復帰するため、スロープの角度がかわります。

▶ 固定・解除スイッチ

固定・解除スイッチ「解除」を押すと、後退防止作動が解除されます。



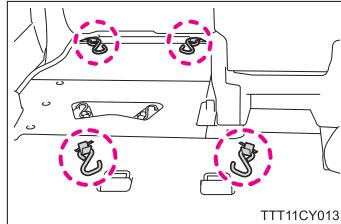
⚠ 警告

■電動ウインチを使用するときは（電動ウインチ装着車）

電動ウインチ作動時、ベルトやベルト巻き取り部にふれないでください。

ベルトの巻き取り不良やベルト巻き取り部に手などを巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

○：ベルト巻き取り部



■助手席側スライドドアを開けて車内外に乗降するときは

足元に注意してください。

ステップの端に足をのせると、足を踏みはずし、転倒したり車両から転落するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

車いすが車いす前席に乗り入れ・固定している場合、乗降時の足元スペースが狭くなるため、十分注意してください。



■車内後部のカバーについて

車内後部のカバーの上に乗ったり、座ったりしないでください。

●カバーから転落してけがをするおそれがあります。

●カバーの中には装置の作動をコントロールする機器が設けてあります。過度な力が加わるとカバーの破損や機器の故障の原因になります。

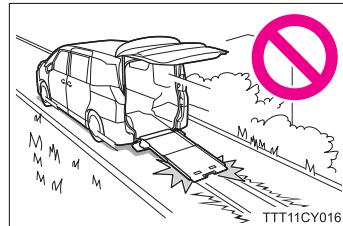


⚠ 警告

■走行するときは

スロープを展開したまま車を移動させないでください。

スロープを展開したまま車を移動させると、スロープの損傷やスロープおよびバックドアが車外の人やものにあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



車いすの固定およびシートベルトの着用について

車内に乗車後の車いすの固定およびシートベルトの着用について、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

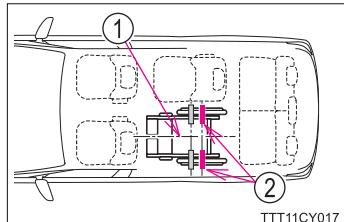
□ 知識

■ 車いすの停止位置について

▶ 車いす前席（1名乗車時）（タイプI）

- ① 左右位置：車いす固定装置と車いすの中央付近を合わせる
- ② 前後位置：車いすの後輪をうしろ側停止線に合わせて停止する

車いすの車内への乗り入れ方（→ P.67）

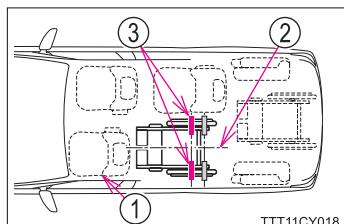


TTT11CY017

▶ 車いす前席（2名乗車時）（タイプI “車いす2名仕様”）

- ① 助手席シートを前方にスライドさせる
- ② 左右位置：車いす固定装置と車いすの中央付近を合わせる
- ③ 前後位置：車いすの後輪を前側停止線に合わせて停止する

車いすの車内への乗り入れ方（→ P.77）



TTT11CY018

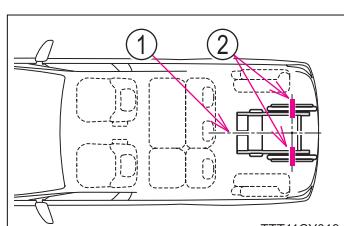
▶ 車いす後席（タイプI “車いす2名仕様”）

/タイプII)

- ① 左右位置：車いす固定装置と車いすの中央付近を合わせる
- ② 前後位置：車いすの後輪中央と床面の停止線に合わせて停止させる

車いす後席での車いすの停止位置は、車いす前席の車いすの有無に関係なく、上記の位置になります。

車いすの車内への乗り入れ方（→ P.67）



TTT11CY019

⚠ 警告

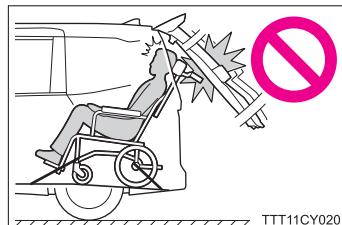
■走行前の車いす固定状態の確認

走行前に車いすが確実に固定されていることを確認してください。
確実に固定されていないと、走行中に車いすが動きだし、転倒したり車いすが損傷するなど重大な事故につながるおそれがあり危険です。

- セーフティベルト★の固定状態を確認するときは、ベルトを強く引っ張り、ベルトが確実に巻き締まっていることを確認してください。(→ P.90)
- 電動ウインチ★のベルトの固定状態を確認するときは、ベルトを強く引っ張り、ベルトに確実に張力がかかっていることを確認してください。(→ P.90)
- 車いす固定装置での車いすの固定状態を確認するときは、車いすを前後にゆすり、ベルトおよびワイヤーにたるみがなく、確実に固定されていることを確認してください。(→ P.90)

■バックドアを閉めるときは：車いす後席乗り入れ時

- スロープ格納時、車いす後席で固定した車いすとスロープがあたらないことを確認してください。
スロープを完全に格納することができないため、そのままバックドアを閉めると、スロープとバックドアが破損するおそれがあります。
- バックドアが車いす乗車の方および車いすにあたらないことを確認しながら、ゆっくり閉めてください。
バックドアが車いす乗車の方の頭にあたるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、車いすおよびバックドアが破損するおそれもあります。



TTT11CY020

■車いすのタイヤ空気圧について

車いすのタイヤが適正な空気圧でないと、車いすを固定する力が弱くなり、車いすを確実に固定することができません。お使いの車いすの取扱説明書を参照し、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

⚠ 警告

■車いす乗車の方のシートベルト着用確認

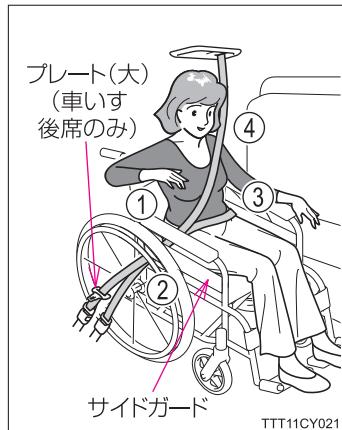
走行中は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

車いす後席の肩部ベルトは、必ずプレート（大）（小）とも格納箱から取り出し、プレート（大）は下側にたらしておきます。（→ P.98, 99）

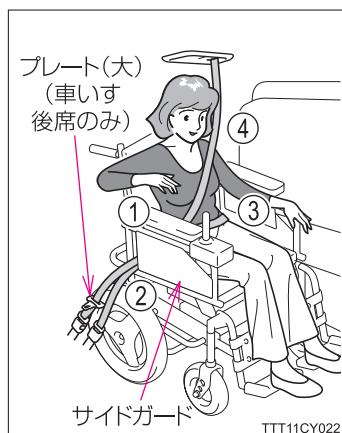
▶ 手動車いす（車いす後席での着用例）

- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② アームレストの下とスポークのあいだを通す
サイドガードの下にスペースがある車いすをご使用の場合、サイドガードの下を通してください。
- ③ 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
腰部ベルトにねじれがないようにしてください。
- ④ 肩部ベルトを肩に十分かける
 - ・ 首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
 - ・ 肩部ベルトにねじれがないようにしてください。



▶ 電動車いす（車いす後席での着用例）

- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② アームレストの下とサイドガードのあいだを通す
サイドガードの下にスペースがある車いすをご使用の場合、サイドガードの下を通してください。
- ③ 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
腰部ベルトにねじれがないようにしてください。
- ④ 肩部ベルトを肩に十分かける
 - ・ 首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
 - ・ 肩部ベルトにねじれがないようにしてください。



車両火災・故障・損傷を防ぐために

車両火災・故障・損傷を防ぐために、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

▲ 警告

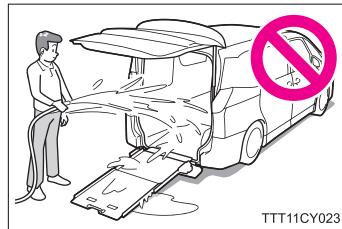
■ 清掃するときは

車内を水洗いしないでください。

電気部品に水がかかると、故障の原因になったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

万一、電気部品に水がかかってしまった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

手入れ、清掃のしかたは、装置により異なります。P.108「お手入れのしかた」を参照し、正しく手入れ、清掃をしてください。



⚠ 注意

■ スロープについて

スロープの耐荷重は 200kg です。

● スロープ先端接地時、スロープに乗り入れる「車いす+車いす乗車の方+手荷物+介助の方」の合計重量が 200kg 以下であることを確認してください。

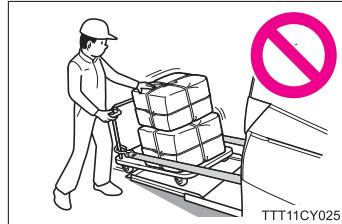
● スロープは車いすの乗り降り専用です。荷物を載せたり耐荷重をこえるとスロープが損傷したり、セーフティベルト★または電動ウインチ★が故障するおそれがあります。



⚠ 注意

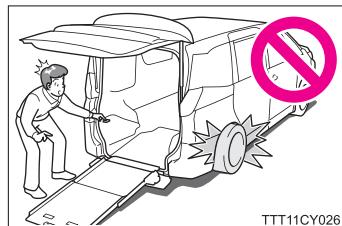
■ セーフティベルト★または電動ワインチ★を使用するときは

セーフティベルト★または電動ワインチ★を使用して、車いす以外のものを車内外に出し入れしないでください。
セーフティベルト★の後退防止機構または電動ワインチ★が故障したり、ベルトが切れるおそれがあります。



■ タイヤ交換をするときは

装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。



シート・室内装備

2

2-1. シート

セカンド・サードシート 26

2-2. 室内装備

収納装備一覧 32

アクセサリーコンセント
(AC100V 1500W) 34

セカンド・サードシート

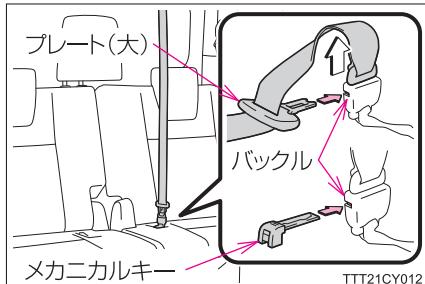
セカンドシート

セカンドシートは、標準車に対して後方スライド量が規制されています。セカンドシートの取り扱いについては、標準車と同様ですので、標準車取扱書を参照してください。

サードシート

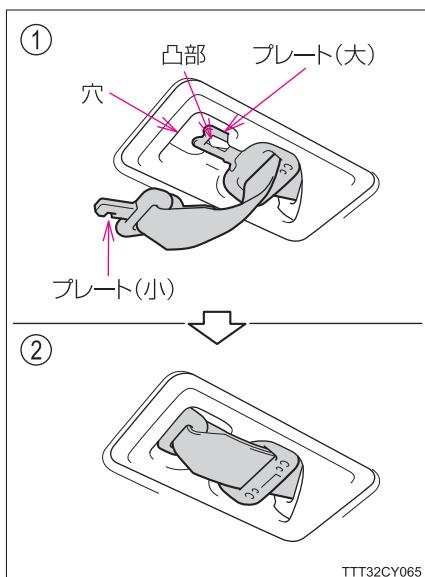
■ サードシートの格納のしかた

- ① 車を停止させ、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバー／シフトポジションをPの位置にする（→ P.13）
- ② スロープを展開する（スロープ前倒れ時を除く→ P.49）
- ③ メカニカルキー（→標準車取扱書の「キー」）、またはプレート（大）をバックルの切り欠きに挿し込み、ベルトを分離し、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどす

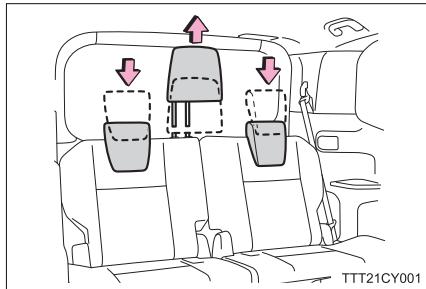


- ④ 中央席のシートベルトを格納する

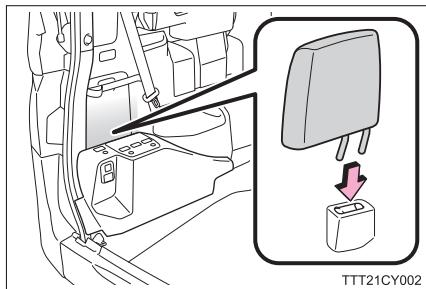
- ① プレート（大）の穴を格納箱の凸部にはめ込む
- ② プレート（小）を格納箱の穴に挿し込む



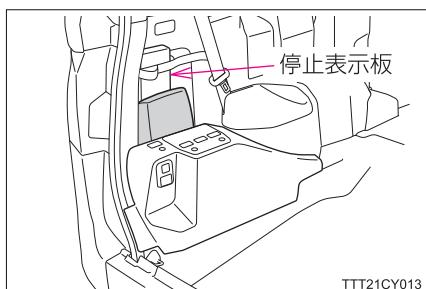
- 5 サードシート左右席のヘッドレストを下げ、中央席のヘッドレストを取りはずす



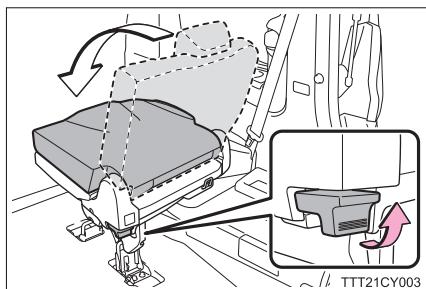
- 6 中央席のヘッドレストを車両左側後部に格納する



停止表示板搭載時には、停止表示板とカバーの間にヘッドレストを格納してください。



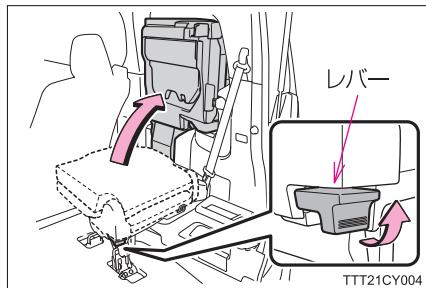
- 7 サードシート後下部のレバーを引き、背もたれを前方に倒す
左右とも倒します。



8 レバーをさらに引き、シートをはね上げる

シートのはね上げと連動して、シート脚部が格納されます。

左右ともはね上げます。

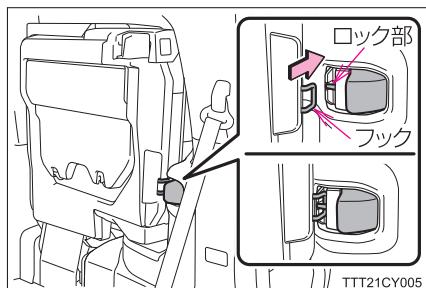


TTT21CY004

9 シートの固定フックをロック部に固定する

シートを押しながら、ロック部に挿し込んでください。

左右とも固定します。



TTT21CY005

10 シートを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認する

11 床面ロックを格納する

① 操作レバーを押してロックを解除する

② うしろ側床面ロックを持って格納する

前側床面ロックも運動して格納されます。

③ うしろ側床面ロックを上から押さえ、完全に格納する

いっぱいまで格納すると“カチッ”と音がしてロックされます。(操作レバーがロック位置にもどります)

左右とも格納します。



TTT21CY006

12 スロープを格納する (→ P.50)

■ サードシートのもどし方

① 車を停止させ、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバー／シフトポジションを P の位置にする (→ P.13)

② スロープを展開する (→ P.49)

③ 床面ロックを取り出す

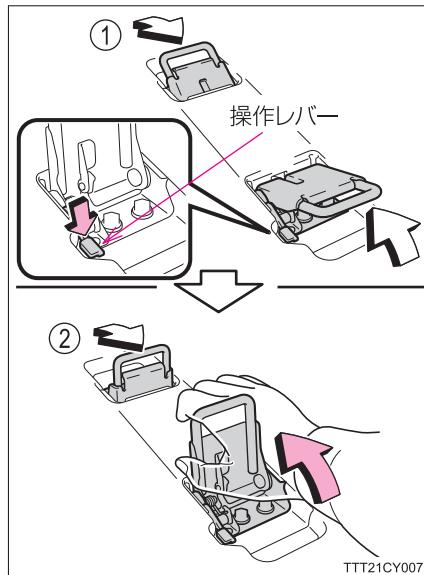
① 操作レバーを押す

床面ロックが少し持ちあがります。

② うしろ側床面ロックをいっぶぱいまで起こす

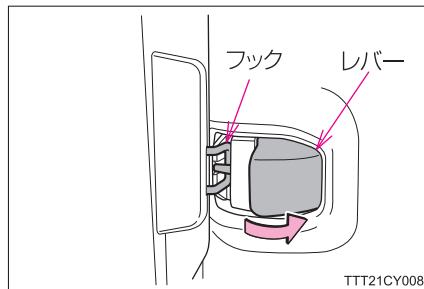
前側床面ロックも連動して起き上がり、床面ロックがロックされます。

左右とも取り出します。



TTT21CY007

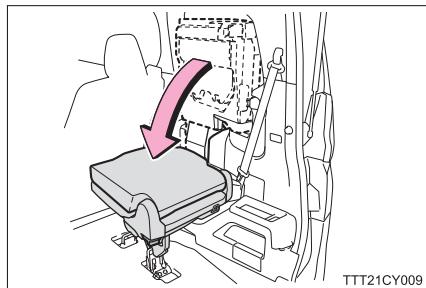
④ レバーを引き、フックをはずす
左右ともはずします。



TTT21CY008

5 シートをおろし、シート脚部を床面ロックに確実に固定させる

- ・シートをおろす動きと連動して、シート脚部が出てきます。
 - ・シートを上から押さえ、確実に固定させます。
- 左右とも固定します。



6 サードシートの背もたれを起こす

7 スロープを格納する (→ P.50)

⚠ 警告

■ サードシートの格納およびもどす操作をするときは

- 走行中はサードシートの格納およびもどす操作をしないでください。
- サードシートを格納したときは、サードシートを確実に固定してください。固定しなかったり、固定していても確実に固定されていないと、サードシートが倒れ、車いす後席乗車の方にあたるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- サードシートを格納したときは、床面ロックを必ず格納してください。床面ロックが起きたままだと車内を移動するにつまずいたり、車いすの車輪が引っかかって転倒するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、床面ロックを破損するおそれもあります。
- 床面ロックの操作をするときは、可動部や結合部で手や足を挟まないよう、注意してください。
- サードシートをもどしたときは、シートを前後左右にゆすり、さらにシートクッションを持ち上げ、シート脚部が床面ロックで確実に固定されたことを確認してください。
確実に固定されていないとシートが動き、急ブレーキをかけたときや衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ サードシートの操作をするときは

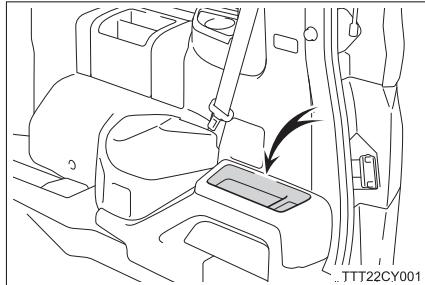
- スロープが格納された状態でサードシートの背もたれを後方に倒すときは、背もたれがスロープにあたらないことを確認してください。
背もたれを倒しすぎるとスロープとあたり、損傷するおそれがあります。
- 床面ロックを格納状態から起こす前に、床面ロックの上に荷物などが載っていないことを確認してください。
荷物の重みで床面ロックの作動がさまたげられ、故障の原因になります。
- サードシートをもどす前に、床面ロックがいちばん起きた位置で確実にロックしていることを確認してください。
 - ・ 床面ロックがいちばん起きた位置かつロックしていない状態でサードシートをもどすと、サードシート脚部および床面ロックを破損するおそれがあります。
 - ・ 床面ロックを起こさない状態でスロープを前倒れにし、サードシートをもどすと、サードシートの脚部が前倒れにしたスロープにあたり、スロープおよびサードシートの傷付き・変形の原因になります。

収納装備一覧

次の場所に小物入れが装備されます。

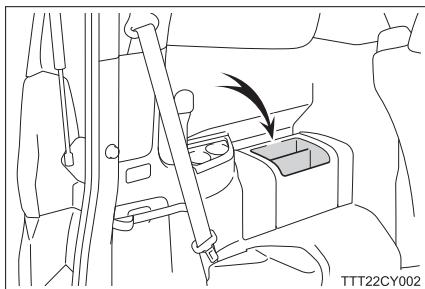
ジャッキカバートレイ

電動ワインチ★用のワイヤレスリモコンなど、小物を置くことができます。

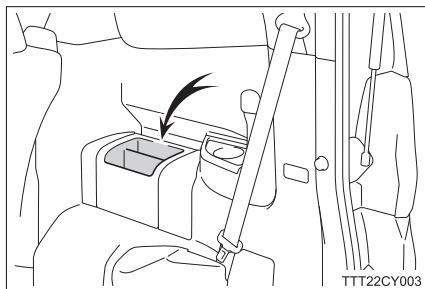


デッキポケット（タイプII “サードシート無”）

▶ 車内左側



▶ 車内右側

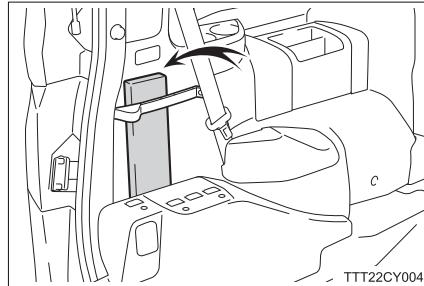


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

停止表示板収納スペース

停止表示板を収納することができます。

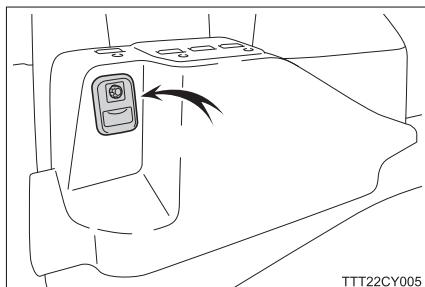
停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。



アクセサリーコンセント (AC100V 1500W) *

アクセサリーコンセントは荷室左側に装備されます。

使用方法は標準車と同様ですので、標準車取扱書の「アクセサリーコンセント (AC100V 1500W)・非常時給電システム」をお読みください。



⚠ 注意

■ アクセサリーコンセントを使用するときは

アクセサリーコンセントをご使用するときは、電気製品の電源プラグとスロープがあたらないことを確認してください

AC アダプターの形状によってはスロープと干渉し、損傷するおそれがあります。

車いすの車内外への 乗り降り

3

3-1. スロープを使用する前に ご使用前に確認して いただきたいこと	36
3-2. 車いすの車内外への 乗降・固定	
操作の流れ	41
作動条件の確認	47
車高調整およびスロープの 展開・格納	48
車いすの車内外への乗降	65
車いすの車内での 固定・解除	88
車いす用シートベルト	95
走行する前に	105

ご使用前に確認していただきたいこと

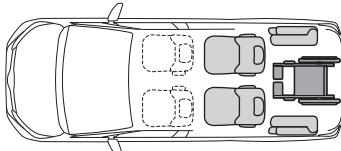
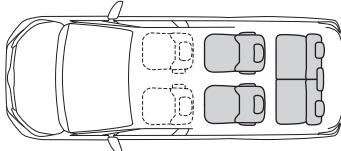
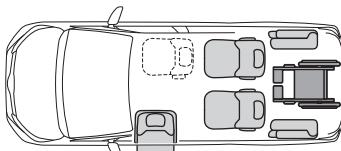
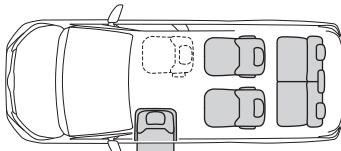
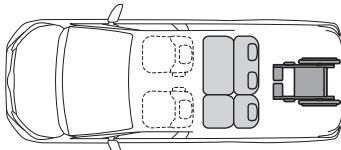
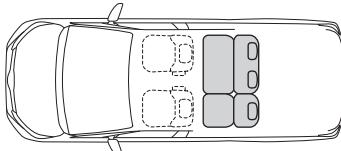
車いすまたは人を乗せた車いすを、スロープ上を移動して車に乗り降りさせます。

車高降下装置で車両後部の車高を低下させ、車いすの車内外への乗り降りを容易にします。

操作はすべて介助の方が行ってください。

室内レイアウト

車両タイプ	室内レイアウト	乗車人数
タイプ I	車いす 1名仕様	車いすご利用時 乗車人数 7名 (6名+車いす1名)
	車いす 2名仕様	車いすをご利用しないとき 乗車人数 6名
	車いす 2名仕様	車いすご利用時 乗車人数 5名 (3名+車いす2名)
タイプ II	サードシート 付 (セカンド シートチップ アップシート 車)	車いすご利用時 乗車人数 6名 (5名+車いす1名)
		車いすをご利用しないとき 乗車人数 8名

車両タイプ	室内レイアウト	乗車人数
タイプⅡ	<p>サードシート付 (セカンドシートキャブ テンシート車)</p> 	<p>車いすご利用時 乗車人数 5名 (4名+車いす1名)</p>
		<p>車いすをご利用しないとき 乗車人数 7名</p>
	<p>サードシート付 + 助手席リフトアップシート</p> 	<p>車いすご利用時 乗車人数 5名 (4名+車いす1名)</p>
		<p>車いすをご利用しないとき 乗車人数 7名</p>
	<p>サードシート無</p> 	<p>車いすご利用時 乗車人数 6名 (5名+車いす1名)</p>
		<p>車いすをご利用しないとき 乗車人数 5名</p>

路面について

スロープは水平で平坦な場所での使用が条件になります。
また、車両周辺・下側に突起物などがないことを確認してください。

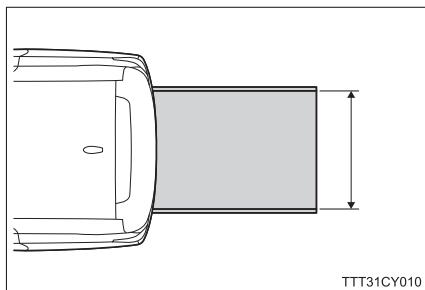
重量について

スロープの耐荷重は 200kg です。

- スロープ先端接地時、スロープに乗り入れる「車いす+車いす乗車の方+手荷物+介助の方」の合計重量が 200kg 以下であることを確認してください。
- スロープを前倒れにしたときは、スロープの上に載せる荷物の重量が 200kg 以下であることを確認してください。

スロープ内幅について

内幅：750mm



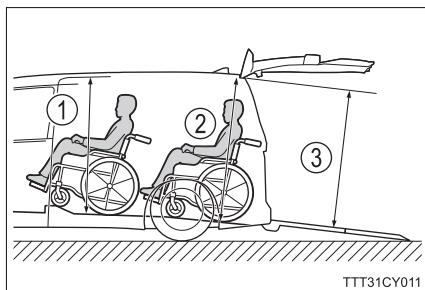
車いすのタイヤ空気圧について

車いすのタイヤが適正な空気圧でないと、車いすを固定する力が弱くなり、車いすを確実に固定することができません。お使いの車いすの取扱説明書を参照し、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

車いす乗車の目安

- ① 有効室内高 1330mm
- ② 有効室内高 1370mm *
- ③ 開口高 1360mm (車高降下時)

* : 首が曲がらない方の場合は、有効室内高ではなく、開口高(1360mm)を乗車の目安にしてください。

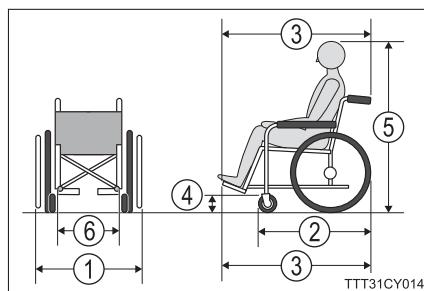


乗車可能な車いすについて

次の寸法を満たしていることを確認してください。

- 一部の電動車いすは乗車できないため、その際はトヨタ販売店にご相談ください。
- 車いすのフレーム形状によっては、車いす固定装置のフックが正しくかけられないときがあります（→ P.89）。その際はトヨタ販売店にご相談ください。
- 車いすのアームレスト下側にカバーなどがある場合、シートベルトを正しく着用できないときがあります（→ P.95～100）。その際はトヨタ販売店にご相談ください。

- ① 車いす全幅
- ② 車いす前輪の前端から後端までの距離
- ③ 車いすのフットレスト先端から後端までの距離
- ④ 地面からフットレストの最下端までの距離
フットレスト自体よりフレームの方が低い場合は、フレーム下端まで
- ⑤ 乗車可能な座高と着座面の高さの合計
- ⑥ フットレストの幅（外寸）



3

車いすの車内外への乗り降り

乗車位置 部位	車いす前席		車いす後席
	車いす 1 名 乗車時	車いす 2 名 乗車時	
①	670mm 以下	670mm 以下	825mm 以下※ ¹
②	830mm 以下	720mm 以下	720mm 以下
③	1150mm 以下	980mm 以下	980mm 以下
④	55mm 以上	55mm 以上	55mm 以上
⑤	1320mm 以下	1320mm 以下	1350mm 以下
⑥	460mm 以下※ ²	460mm 以下※ ²	485mm 以下

*¹ : タイヤの幅は 710mm 以下（外寸）となります。

*² : センターコンソールありの場合は 440mm 以下となります。

⚠ 警告

■走行するときは

スロープを展開したまま車を移動させないでください。

スロープが損傷したり、スロープおよびバックドアが車外の人やものにあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（→ P.19）

■車いすのタイヤ空気圧について

車いすのタイヤが適正な空気圧でないと、車いすを固定する力が弱くなり、車いすを確実に固定することができません。お使いの車いすの取扱説明書を参照し、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

■車いすを車内に乗り入れるときは

助手席リフトアップチルトシートを同時に作動させないでください。（助手席リフトアップチルトシート装着車）

車両後部の車高が下がるため、助手席リフトアップチルトシートからの転落やシートが地面と接触するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です

■車いすを車内に乗り入れたときは

● タイプIで車いす前席に車いすを乗り入れたときは、助手席シートの後方スライドや背もたれをうしろ側に倒す操作を急激に行わないでください。
助手席シートの操作を急激に行うと、車いす乗車の方にあたり、けがをするおそれがあります。車いす乗り入れ後、助手席シートの調整をするときは、車いす乗車の方にあたらないことを確認しながらゆっくりと行ってください。

● 車いす後席に車いすを乗り入れたときは、セカンドシートの後方スライドや背もたれをうしろ側に倒す操作を急激に行わないでください。
セカンドシートの操作を急激に行うと、車いす乗車の方にあたり、けがをするおそれがあります。車いす乗り入れ後、セカンドシートの調整をするときは、車いす乗車の方にあたらないことを確認しながらゆっくりと行ってください。

⚠ 注意

■損傷を防ぐために

スロープの耐荷重 200kg（→ P.38）をこえないようにしてください。

スロープが損傷するおそれがあります。

操作の流れ

スロープ・セーフティベルト★または電動ワインチ★および車いす固定装置を使用して車いすを車内外に乗降・固定するときは、次の手順で行います。

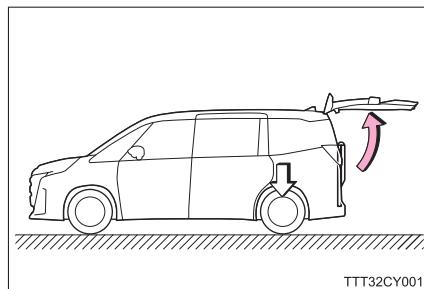
すべての操作は必ず介助の方が行ってください。

車いすを車内に乗り入れ・固定するときは

- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま（ハイブリッドシステムを作動状態のまま）駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバー／シフトポジションを P の位置にする（→ P.13）

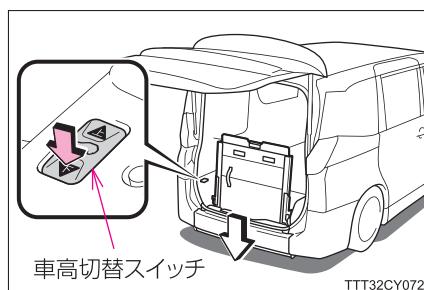
- 2 バックドアを開く

- ▶ バックドア連動車高切替モード
バックドアを開くことで車高を自動で降下させる（→ P.48）

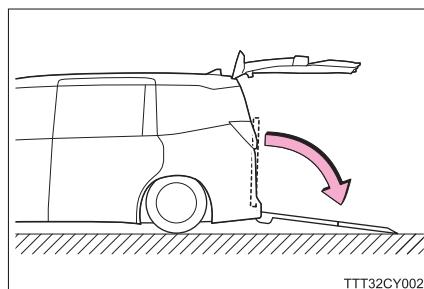


- ▶ マニュアル車高切替モード

バックドアを開いて、車高切替スイッチの「下」を押し、車高を降下させる（→ P.49）

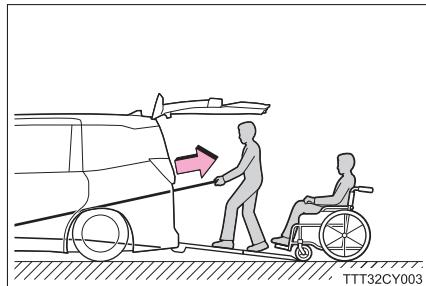


- 3 スロープを展開する（→ P.49）

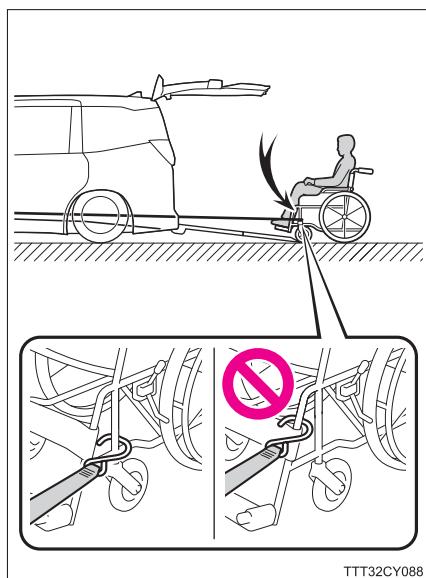


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 4 サードシートを格納する（タイプI／タイプII “サードシート付”
→ P.26）
- 5 助手席シートおよびセカンドシートの前後位置を調整する（→ P.65
および標準車取扱書の「フロントシート」「セカンドシート」）
- 6 車いすをスロープに近付けて止め、車いすのブレーキを両輪ともかける（→ P.67）
- 7 固定・解除スイッチのインジケーターが点滅していることを確認する
(→ P.67)
- 8 フックを持ってベルトを引き出す（→ P.70）



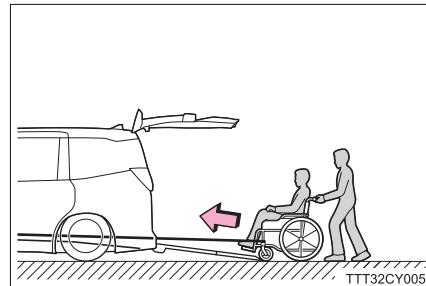
- 9 車いすの前部フレームのいちばん下の接合部にフックをかける
(→ P.70)



10 車いすを車内に乗り入れる

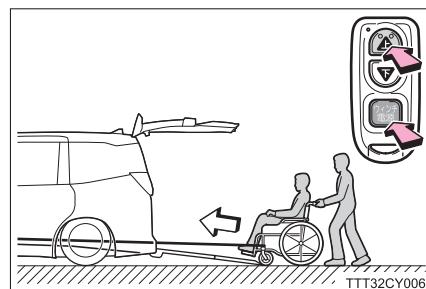
► セーフティベルト装着車

- ① 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ② 所定の位置まで乗り入れる
(→ P.71, 73)



► 電動ウインチ装着車

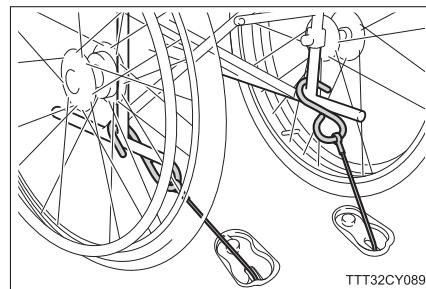
- ① 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ② ワイヤレスリモコンを操作し、所定の位置まで乗り入れる
(→ P.72, 73)



11 車いすのブレーキを両輪ともかける

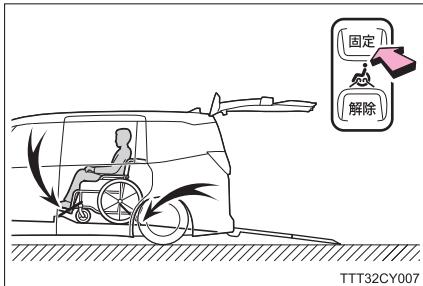
12 車いすを車内に固定する

- ① 車いす固定装置からベルトまたはワイヤーを引き出し、車いすの後部フレームにフックをかける
(→ P.89)

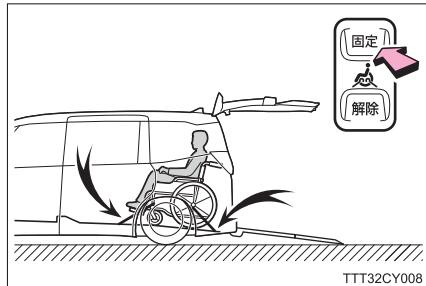


② 固定・解除スイッチの「固定」を押す (→ P.89)

▶ 車いす前席

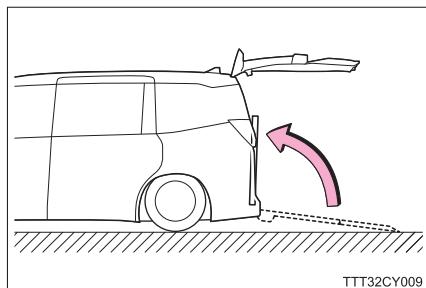


▶ 車いす後席



13 車いす用シートベルトを着用する (→ P.95 ~ 100)

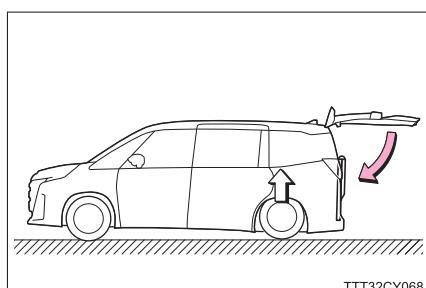
14 スロープを格納する (→ P.50)



15 バックドアを閉める

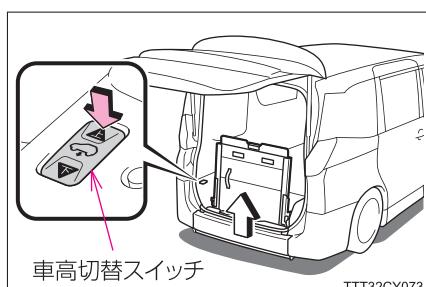
▶ バックドア連動車高切替モード

バックドアを閉めることで車高を自動で復帰させる (→ P.50)



▶ マニュアル車高切替モード

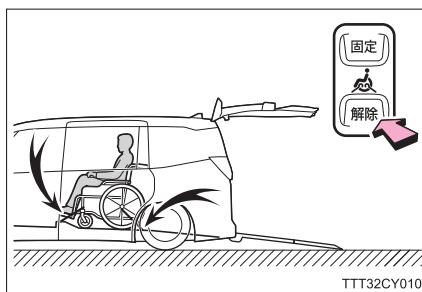
車高切替スイッチの「上」を押し、車高を復帰させてからバックドアを閉める (→ P.51)



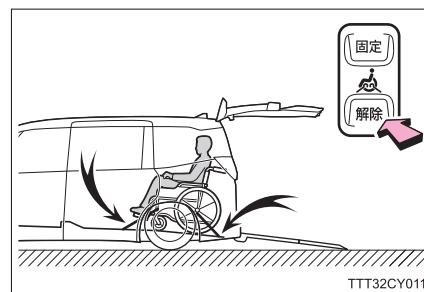
車いすを車外に降ろすときは

- ① 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま（ハイブリッドシステムを作動状態のまま）駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバー／シフトポジションを P の位置にする
- ② バックドアを開け、車高を降下させる（バックドア連動車高切替モード→ P.48 / マニュアル車高切替モード→ P.49）
- ③ スロープを展開する（→ P.49）
- ④ 車いす用シートベルトをはずす（→ P.101, 102）
- ⑤ 車いすの固定を解除する（→ P.91）
 - ① 固定・解除スイッチの「解除」を押し、ベルトまたはワイヤーをゆるめる
 - ② 車いすの後部フレームからフックを取りはずす

▶ 車いす前席



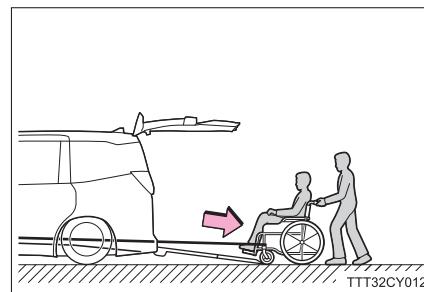
▶ 車いす後席



- ⑥ 車いすのブレーキを両輪とも解除し、セーフティベルト★または電動ワインチ★を使用して、車いすを車外に降ろす

▶ セーフティベルト装着車

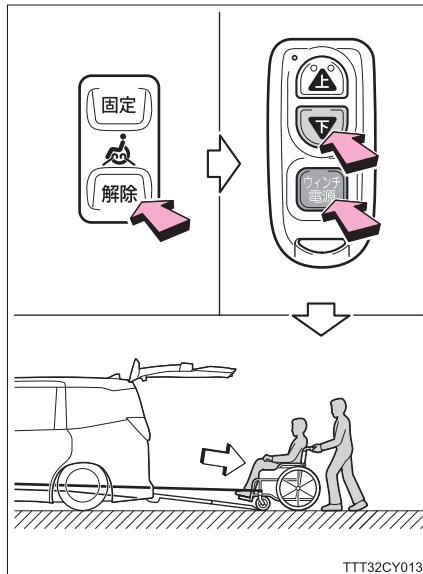
- ① 固定・解除スイッチのインジケーターが点滅していることを確認する（→ P.74）
消灯している場合は再度固定・解除スイッチの「解除」を押して点滅させる
- ② 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ③ 車いすを車外に降ろす
(→ P.75)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 電動ウインチ装着車

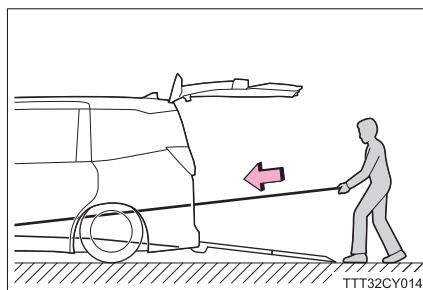
- ① 固定・解除スイッチのインジケーターが点滅していることを確認する (→ P.74)
消灯している場合は再度固定・解除スイッチの「解除」を押して点滅させる
- ② 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ③ ワイヤレスリモコンを操作し、車いすを車外に降ろす
(→ P.75)



TTT32CY013

7 車いすのブレーキを両輪ともかける

8 セーフティベルト★または電動ウインチ★のベルトのフックを車いすの前部フレームから取りはずし、ベルトがねじれないように巻き取る



TTT32CY014

9 スロープを格納させる (→ P.50)

10 バックドアを閉め、車高を復帰させる (バックドア連動車高切替モード→ P.50 / マニュアル車高切替モード→ P.51)

作動条件の確認

各装置の作動条件について

車高降下装置、セーフティベルト★、電動ワインチ★、車いす固定装置の各装置は、次の作動条件をすべて満たす場合に作動します。

- 作動条件をすべて満たさない状態でスイッチを押しても、作動しません。
- 作動途中で作動条件を満たさなくなると、装置の作動が停止します。

装置	作動条件
車高降下装置	エンジンをかけた状態〈ハイブリッドシステムを作動状態〉*
	シフトレバー／シフトポジション「Pの位置」
	バックドア「開」
セーフティベルト★ 電動ワインチ★ 車いす固定装置	エンジンをかけた状態〈ハイブリッドシステムを作動状態〉*
	シフトレバー／シフトポジション「Pの位置」

* : エンジン〈ハイブリッドシステム〉停止状態ではバッテリーあがりの原因になったり、十分な性能を引き出せないおそれがあるため、エンジンをかけた状態〈ハイブリッドシステムを作動状態〉で使用してください。

車高調整およびスロープの展開・格納

車高降下装置はエアサスペンションにより車両後部の車高を低下させ、車いすの車内外への乗り降りを容易にします。

操作前の確認事項

- 車高降下装置の作動条件を確認してください。(→ P.47)
- パーキングブレーキを確実にかけ、ブレーキペダルを踏まずに操作してください。

ブレーキペダルを踏んだまま操作すると、車高降下・復帰完了しません。

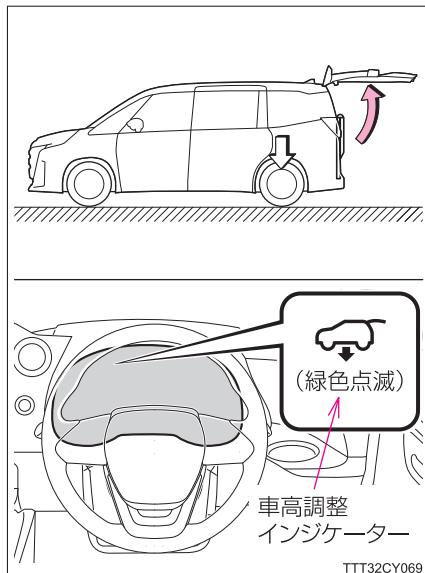
車高降下およびスロープの展開のしかた

1 車高を降下させる

▶ バックドア連動車高切替モード

バックドアを開く

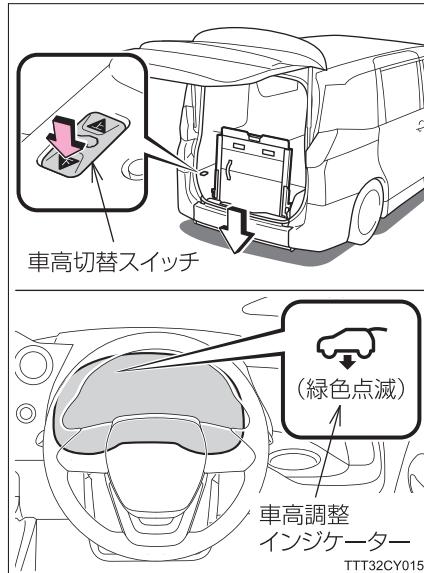
- ・バックドア連動車高切替モード中は、メーター内の車高調整インジケーターが常時、緑色点灯しています。
- ・バックドアを開くことで車高が自動的に降下します。
- ・車高降下が始まり、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点滅します。
- ・車高が下がりきると自動的に停止し、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点滅し続けます。



▶ マニュアル車高切替モード

バックドアを開いて、車高切替スイッチの「下」を押し、車高を降下させる

- ・車高降下が始まり、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点滅します。
- ・車高が下がりきると自動的に停止し、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点滅し続けます。

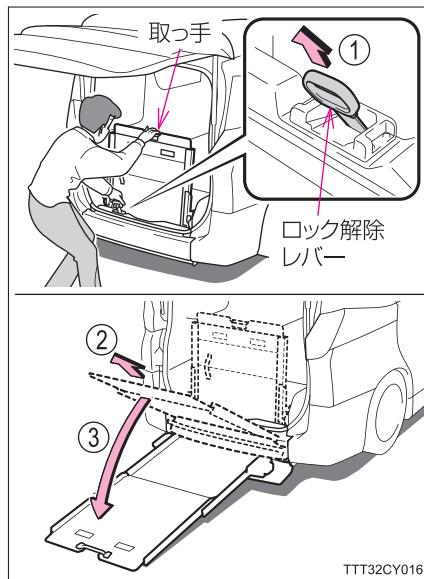


3

車いすの車内外への乗り降り

2 スロープを展開する

- ① スロープ先端の取っ手を片方の手で持ち、もう片方の手でロック解除レバーを引き、スロープのロックを解除する
- ② スロープ先端の取っ手をしっかりと持って、スロープを車外へゆっくり引き出す
- ③ スロープができるだけいっぱいまで引き出したら、静かに接地させる



■ 車高降下を途中でやめるときは

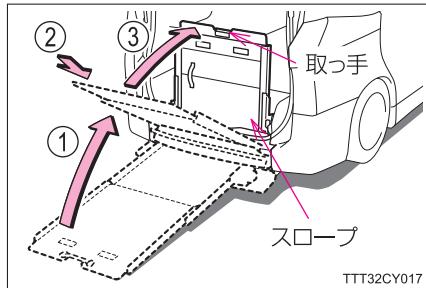
不測の事態により、車高降下を途中でやめたいときは、作動途中で車高切替スイッチの「上」を押すと、車高が復帰（上昇）します。

再度車高切替スイッチの「下」を押すと、車高が降下します。

スロープの格納および車高復帰のしかた

① スロープを格納する

- ① スロープ先端の取っ手をしつかり持って、スロープを少し持ち上げる
- ② スロープをいっぱいまで静かに押し込む
- ③ スロープをゆっくり立てて、静かに格納する
 - ・ いっぱいまで格納すると“カチ・カチ”と音がしてロックされます。
 - ・ スロープ先端の取っ手を持って前後にゆすり、確実にロックしていることを確認します。

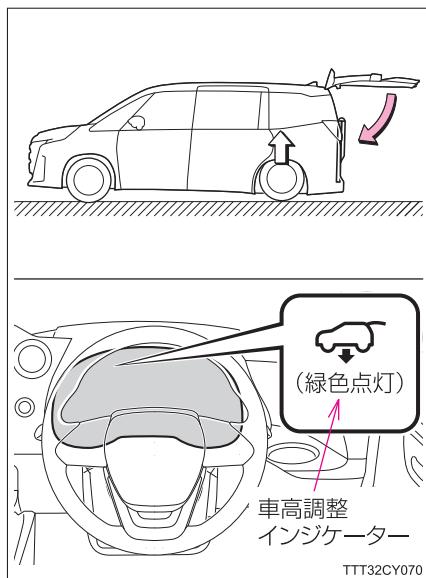


② 車高を復帰させる

▶ バックドア連動車高切替モード

バックドアを閉める

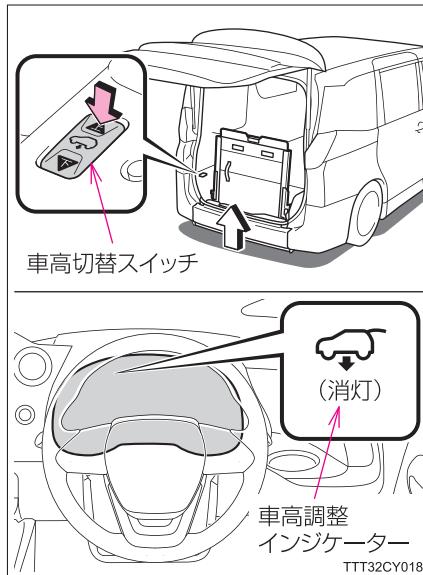
- ・ バックドアを閉めることで車高が自動的に復帰します。
- ・ 車高復帰が始まり、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点滅し続けます。
- ・ 車高復帰が完了すると自動的に停止し、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点灯します。
- ・ バックドア連動車高切替モード中は、メーター内の車高調整インジケーターが常時、緑色点灯し続けます。



► マニュアル車高切替モード

車高切替スイッチの「上」を押し、車高復帰させる

- ・車高復帰が始まり、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点滅し続けます。
- ・車高復帰が完了すると自動的に停止し、メーター内の車高調整インジケーターが消灯します。



スロープ前倒れ機構

スロープを使用しないときは、スロープを前倒れにすることができます。

スロープ前倒れ後、サードシートを着座状態にすることもできます。“サードシート付”

■ スロープの前倒れ・もどす操作をする前に

① 車両が安全で、平坦な場所に駐車し、エンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止する

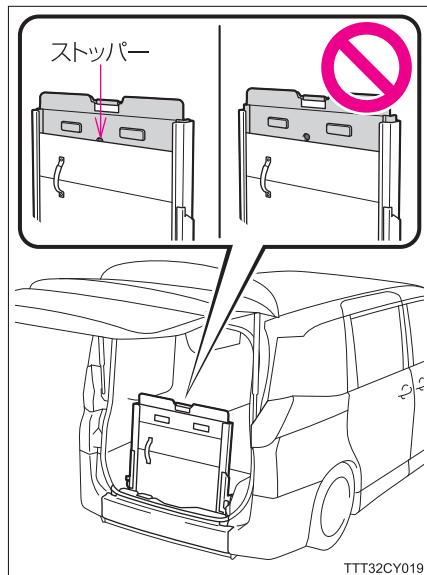
② サードシートを格納する“サードシート付”(→P.26)

スロープ前倒れ後にサードシートを着座状態にもどすときは、床面ロックは起こしたままにしておきます。

③ スロープを格納する
(→P.50)

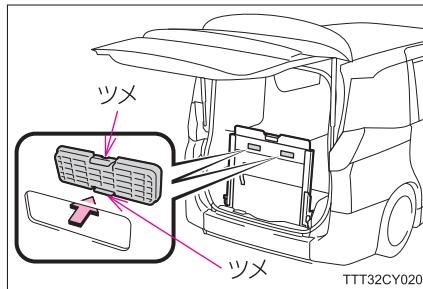
格納後、次のことを確認します。

- ・スロープ先端の取っ手を持って前後にゆすり、起立位置で確実にロックしていること
- ・スロープがいっぱいまで押し込まれ、ストッパーが半分くらい隠れた状態になっていること

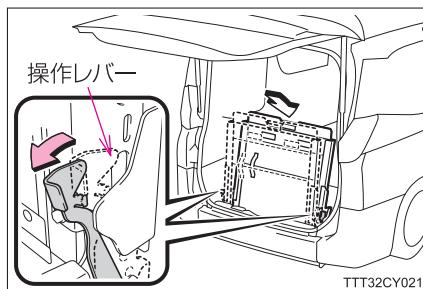


■スロープの前倒れのしかた

- 1 スロープ左右のカバーのツメを押したまま、カバーを車両前方に引き抜く（床面ロック起立時のみ）



- 2 スロープ左右の操作レバーを同時に引き、ロックを解除する
スロープが前方に傾きます。



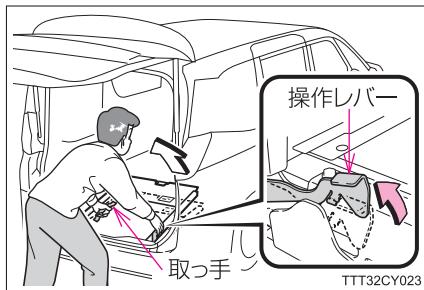
- 3 スロープ中央付近を押し、前方に倒す
“カチッ”と音がするまで倒し、確実にロックさせます。



■スロープの起こし方

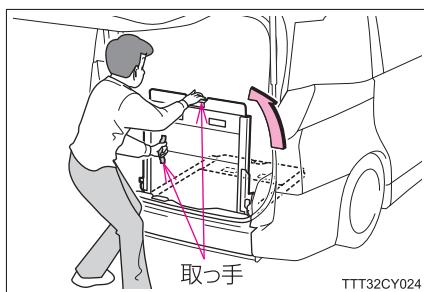
- 1** 左手で左側の取っ手を持ち、右手でスロープ右側の操作レバーを引き、ロックを解除する

- ・左側の操作レバーは操作しないでください。
- ・ロック解除後、スロープから左手を離すとスロープが起き上がりますので、顔や体をスロープに近付けないでください。

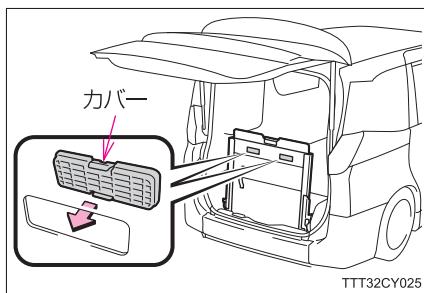


- 2** スロープ先端の取っ手と、左側の取っ手を持ち、手前に起こす

- ・“カチッ”と音がするまで起こし、確実にロックさせます。
- ・取っ手を持って前後にゆすり、確実にロックしていることを確認します。



- 3** スロープ左右のカバーを車両前方からはめる



知識

■車高復帰忘れ防止機能について

万一、車高復帰を忘れた場合、シフトレバー／シフトポジションを P 以外の位置に操作すると、車高が自動復帰します。

■車高切替モードについて

▶バックドア連動車高切替モード

車高切替スイッチが「下」になっているときに、バックドアの開閉により自動で車高が降下・復帰（上昇）します。

- ・メーター内車高調整インジケーターは、車高復帰後に常時緑色点灯します。
- ・車いすの乗降が多い場合に向いています。

作動	メーター内車高調整 インジケーター
降下・復帰（上昇）中	緑色点滅
復帰完了・標準車高時	緑色点灯

▶マニュアル車高切替モード

バックドアを開けて、車高切替スイッチを押すことで車高が降下・復帰（上昇）します。

- ・メーター内車高調整インジケーターは、車高復帰後に消灯します。
- ・車いすの乗降以外にもご利用する場合に向いています。

作動	メーター内車高調整 インジケーター
降下・復帰（上昇）中	緑色点滅
復帰完了・標準車高時	消灯

 知識**■車高降下装置について**

- ブレーキペダルを踏んだまま車高切替スイッチを押すと、車高降下時は 10 秒間作動後・車高復帰時は 15 秒間作動後に作動を中断します。
- 車高復帰中にブレーキペダルを踏むと、車高復帰を中断します。ブレーキペダルを踏んでいる時間が 95 秒未満であれば、ブレーキペダルから足を離すと、車高復帰を再開します。
- 車高降下装置の作動を 95 秒以上中断させた場合、ブレーキペダルから足を離し、車高切替スイッチをバックドア連動車高切替モード時は「上」を押し、マニュアル車高切替モード時は、「下」を押してから「上」を押すと、車高復帰を再開します。
- 車高降下・復帰操作を短時間にくり返し（目安として 4 分間に 3 回以上）を行うと、エアサスペンションのコンプレッサの過熱防止（保護）のため、しばらく作動しなくなることがあります。
 - ・ エンジンスイッチ ON の状態で 10 分以上待機してから車高切替スイッチを押すと、再度車高降下装置が作動します。
 - ・ 再度車高降下装置が作動しなくなった場合は、エンジンスイッチ ON の状態で 70 分以上待機してから車高切替スイッチを押すと、再度車高降下装置が作動します。
- 氷・雪または石などがボデーに接触していると、車高降下を行っても車高降下速度が遅くなったり、車高降下が完了しないことがあります。
この場合、エンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止してから障害物を取り除いてください。
- エンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止すると、気温の変化により多少車高がかわることがあります。その場合、エンジン〈ハイブリッドシステム〉を始動するともどります。

□ 知識

■ 車高降下装置の作動音について

次のようなときに、エアサスペンションが作動し、車両左側後方からコンプレッサまたはバルブの作動音が聞こえることがあります、異常ではありません。

● スイッチ操作による車高調整時

車高切替スイッチにより、車高をかえたとき

● オートレベリング機能*による車高調整時

- ・ 乗員や荷物など積載条件の変化により車高がかわり、車高調整が作動したとき
- ・ エアサスペンションの温度変化により車高がかわり、車高調整が作動したとき
- ・ 縁石に乗ったり降りたりして、車高調整が作動したとき
車高が変化しても、一定時間経過しないと車高降下装置は作動しません。
(作動までの時間は条件によって異なります)

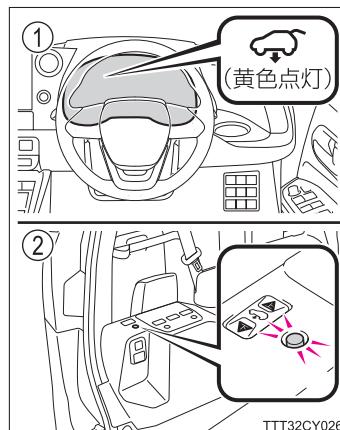
*：乗員の数や荷物などの積載条件がかわっても、常に一定の高さになるよう、自動で車高を制御する機能

■ 車高降下装置のシステムに異常が発生したときは

車高降下・復帰を中断し、次のように異常が発生したことをお知らせします。

- ① メーター内の車高調整インジケーター：
黄色点灯
- ② 左リヤデッキサイド部の車高降下装置異常ランプ：黄色点灯

上記の場合は、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。



■ 車高降下装置異常ランプについて

作動確認のためにエンジンスイッチをONになると点灯し、数秒後またはエンジンをかける〈ハイブリッドシステム作動状態〉と消灯しますが、この場合は車高降下装置の異常ではありません。

□ 知識

■ 車高調整インジケーターについて

バックドア連動車高切替モード時：

作動確認のためにエンジンスイッチを ON またはエンジンをかける（ハイブリッドシステム作動状態）と緑色点灯し続けますが、この場合は車高降下装置の異常ではありません。

マニュアル車高切替モード時：

作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると緑色点灯し、数秒後またはエンジンをかける（ハイブリッドシステム作動状態）と消灯しますが、この場合は車高降下装置の異常ではありません。

■ スロープについて

スロープ引き出し部のレールをときどき点検し、石などの異物がつまっていないことを確認してください。異物がつまると、スロープの引き出し・格納ができなくなります。スロープの引き出し・格納がしづらくなったときは、スロープの清掃をしてください。（→ P.108）

■ スロープが起立状態以外でロック解除レバーを操作したときは

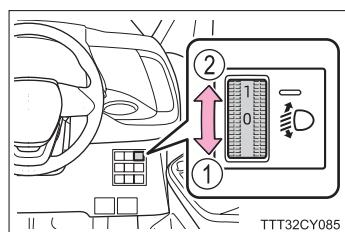
スロープ前倒れまたは前倒れ途中および起こす途中でロック解除レバーを引いてしまった場合、スロープの展開方向のロックが半がかり状態になります。次の操作をし、スロープをロックさせてください。

- ① バンパー部分を前後にゆすり、スロープの展開方向のロックが半がかり状態であることを確認する
- ② スロープ先端の取っ手と、左側の取っ手を持って手前に起こし、ロックさせる（→ P.54）
- ③ スロープ先端の取っ手を持ち、通常の展開・格納操作をする（→ P.49, 50）

■ ヘッドライト光軸切りかえについて

ヘッドライト点灯状態で通行人や対向車がまぶしくないように、手動光軸調整ダイヤルを次のように操作してください。

- ① 車高降下前：手動光軸調整ダイヤルを“5”にし、ヘッドライトの光軸を下げてください。
- ② 車高復帰後：車いす乗車時または、降車後に手動光軸調整ダイヤルを“0”にし、ヘッドライトの光軸をもどしてください。



TTT32CY085

⚠️ 警告

■ エアサスペンションについて

次の状況ではエンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止してください。
エンジンがかかった状態〈ハイブリッドシステム作動状態〉だと、オートレベル機能※により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 縁石などに乗り上げて駐車するとき
- 脱輪したとき
- ジャッキアップするとき
- タイヤチェーンを装着するとき
- レッカーカーなどで車を持ち上げてけん引するとき

※：乗員の数や荷物などの積載条件がかわっても、常に一定の高さになるよう、自動で車高を制御する機能

⚠️ 警告

■車高調整およびスロープを使用するときは

- 車両周辺・バックドア下側に人がいないこと、車両下側や後輪付近に突起物などがないことを十分確認してください。
車高降下時、車両後端が大きく下がるため、手足を挟むなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、車両を損傷するおそれもあります。
バックドアも車高に合わせて動くため、バックドア端部などで顔や頭を打たないように注意してください。
- 操作前にパーキングブレーキを確実にかけ、車高降下装置作動中はブレーキペダルを踏まないでください。
ブレーキペダルから足を離したとき、車高が急にかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車高降下中、シフトレバー／シフトポジションを P 以外の位置にしないでください。
P 以外の位置にすると車高が自動復帰し、転倒するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スロープ展開後、スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。
段差やスロープ下部にものがあたるなどにより、スロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏みはずして転倒したり、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれもあります。
- スロープを展開したまま車を移動させないでください。
そのまま移動するとスロープが損傷したり、スロープおよびバックドアが車外の人やものにあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車高調整および助手席リフトアップチルトシートを同時に作動させないでください。(助手席リフトアップチルトシート装着車)
車両後部の車高が下がるため、助手席リフトアップチルトシートからの転落やシートが地面と接触するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



警告

■車高調整およびスロープを操作するときは

- 必ず車高を下げてスロープを使用してください。
車高を下げずに人が乗ったりすると、スロープが損傷したり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スロープのロックを解除するときは、必ず片方の手でスロープ先端の取っ手を持ってください。
スロープ先端の取っ手を持たずにスロープのロックを解除すると、スロープが不意に倒れ、けがをするおそれがあります。
- スロープの引き出し・格納をするときは、必ずスロープ先端の取っ手を持って操作してください。
スロープ先端の取っ手以外の場所を持って操作すると、格納部やレール部で手を挟むなど、けがをするおそれがあります。
- スロープの引き出し・格納途中で絶対にスロープ先端の取っ手から手を離さないでください。
スロープが落下し、足にあたってけがをしたり、スロープが損傷するおそれがあります。
- スロープの引き出し・格納をするときは、足元に注意しながら行ってください。
スロープと地面のあいだで足を挟んだり、足がスロープにあたってけがをするおそれがあります。また、つまずいて転倒するおそれがあります。
- スロープを引き出すときは、できるだけいっぱいまで引き出してください。
いっぱいまで引き出さずに使用すると、スロープが急角度になって乗降が困難になったり、路面によっては乗降時スライド部分が動き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スロープに車いすをのせたときは、車高切替スイッチを押さないでください。
スロープの角度がかわり、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

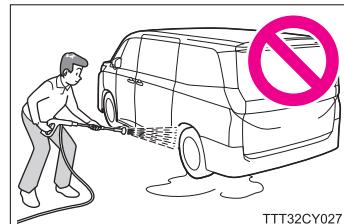
⚠ 警告**■スロープの前倒れ・起こす操作をするときは**

- スロープを前倒れにするときは、スロープを倒す方向に人がいないことを確認してください。
スロープ前倒れ時、スロープが人にあたり、けがをするおそれがあります。
- スロープを前倒れにするときは、スロープ中央付近を押してください。
スロープ両端のレール部などを持つと、手や指を挟むなど、けがをするおそれがあります。
- スロープ前倒れ状態で右側の操作レバーを操作するときは、スロープに顔や体を近付けないでください。
操作レバーを操作してロックが解除されるとスロープが起き上がり、顔や体にあたり、けがをするおそれがあります。
- スロープを起こすときは、必ずスロープ先端の取っ手と、左側の取っ手を持って操作してください。
取っ手以外の場所を持って操作すると、ロック部や可動部で手や指を挟むなど、けがをするおそれがあります。
- スロープの左右のカバーを取りはずしたときは、スロープを使用する前に、必ずカバーを取り付けてください。
カバーを取りはずしたままスロープを使用すると、車内外への乗降時、つまづいてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■ 故障・損傷・破損を防ぐために

- 砂利道など凹凸面のある路面では車高降下時、スロープの変形およびバンパー表面を傷付けるおそれがありますのでご注意ください。
- ドアを開けた状態で車高を降下させるときは、ドア下部にドアと接触するおそれがあるようなものがないことを確認してください。
- 長期間にわたって駐車する場合、車高が自然に低下することがあります。（エンジン（ハイブリッドシステム）を始動すると、もともどります）
長期間にわたって車両を駐車するときは、車高が下がった場合に、ボデーと接触するおそれのあるようなものがないことを確認してください。
- 高圧洗浄機を使用するときは、エアサスペンション部およびコンプレッサ部に直接水があたらないようにしてください。
水圧が高いため、直接水があたるとエアサスペンション部の部品が破損するおそれがあります。
- スロープ格納時、車いす後席で固定した車いすとスロープがあたらないことを確認してください。（タイプI “車いす2名仕様”／タイプII）
スロープを完全に格納することができないため、そのままバックドアを閉めると、スロープとバックドアが傷付くおそれがあります。
- スロープ格納時、サードシートの背もたれが後方に倒れていないことを確認してください。（タイプI／タイプII “サードシート付”）
サードシートの背もたれが損傷するおそれがあります。



⚠ 注意

■ 故障・破損・損傷を防ぐために

- 車高を下げる前に、スロープが格納されていることを確認してください。
スロープが傷付くおそれがあります。
- スロープを格納したときは、取っ手を持って前後にゆすり、確実にロックしていることを確認してください。
確実にロックしていないと、走行中異音が発生したり、バックドアにあたり損傷するおそれがあります。
- スロープを前倒れにする前に、スロープがいっぱいまで押し込まれていることを確認してください。 (→ P.52)
いっぱいまで押し込まれていない状態でスロープを前倒れにすると、床面ロックにあたり、損傷するおそれがあります。
- スロープを前倒れにする前に、サードシートが格納されていること、および倒す方向にものが置かれていないことを確認してください。
そのままスロープを前倒れにすると、スロープがサードシートやものにあたり、損傷するおそれがあります。
- スロープを前倒れにする前に、床面ロックが格納またはいちばん起きた位置で確実にロックしていることを確認してください。
床面ロックが格納またはいちばん起きた位置かつロックされていない状態でスロープを前倒れにすると、スロープが床面ロックにあたり、スロープおよび床面ロックが傷付き・変形するおそれがあります。
- 床面ロックが起きた状態でスロープを前倒れにすることは、必ず左右のカバーを取りはずしてください。
カバーが取り付けられたままスロープを前倒れにすると、カバーと床面ロックがあたり、カバーおよび床面ロックが傷付き・破損するおそれがあります。
また、スロープが完全に前倒れにできず、ロックがかかりません。
- スロープを展開した状態で、操作レバーを操作しないでください。
スロープの変形や、地面との接触によるバンパー傷付きの原因になります。

車いすの車内外への乗降

セーフティベルト★または電動ワインチ★を使用して、車いすを車内外に乗降します。

装備により操作方法が異なります。お乗りのお車に該当する項目を参照してください。

操作前の確認事項

セーフティベルト（セーフティベルト装着車）または電動ワインチ（電動ワインチ装着車）の作動条件を確認してください。（→ P.47）

車いすを車内に乗り入れる前に

- ① サードシートが着座状態になっているときは、サードシートを格納する（タイプI／タイプII “サードシート付” → P.26）
- ② 車いすの乗り入れ状態に応じて、助手席シートおよびセカンドシートを次のように調整する

▶ タイプIの助手席シート

助手席シートを前方にスライドさせる

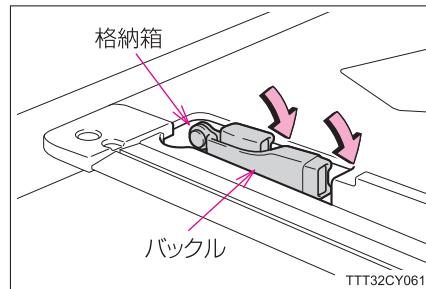
助手席シートに乗車の方の足元が窮屈になります。

▶ セカンドシート

セカンドシートを前方にスライドさせる

セカンドシートに乗車の方の足元が窮屈になります。

- ③ 車いす前席用シートベルトのバックルを格納する（タイプI
車いす2名仕様）



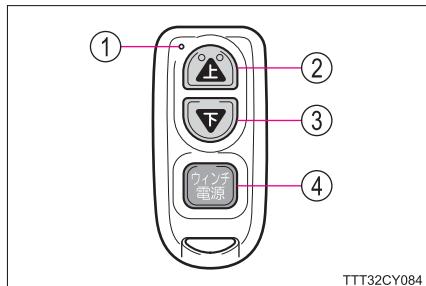
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイヤレスリモコン（電動ウインチ装着車）

ワイヤレスリモコンで電動ウインチのベルトの引き出し・巻き上げ操作ができます。

■ 各部の名称

- ① 動作表示 LED
- ② 上スイッチ
- ③ 下スイッチ
- ④ 電源スイッチ



■ 使い方

ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、6秒以内（動作表示 LED 赤色点灯時）に上スイッチまたは下スイッチを押し続ける（動作表示 LED 緑色点滅）

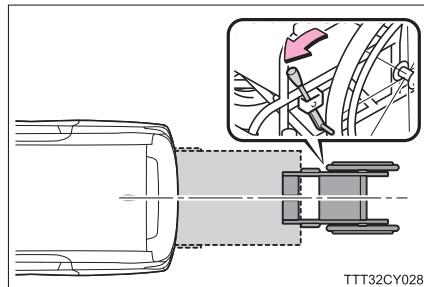
車いすを車内に乗り入れるときは

- 1 車いす用シートベルトのバックルおよびプレートを格納してください。
- 2 車いすをスロープの手前で停止し、車いすのブレーキを両輪ともかける
車いすの中央付近とスロープの中央付近を合わせます。
- 3 乗り入れる側の固定・解除スイッチのインジケーターの状態を確認する

▶ 車いす前席

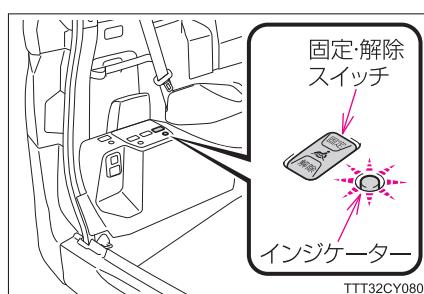
■ ランプが点滅

車いす前席側の固定・解除スイッチのインジケーターが点滅していることを確認する



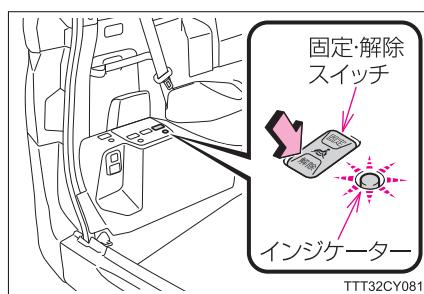
3

車いすの車内外への乗り降り



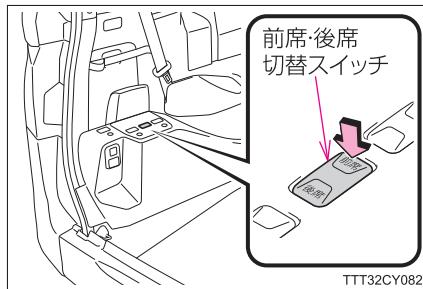
■ ランプが消灯

車いす前席側の固定・解除スイッチのインジケーターが消灯しているときは、固定・解除スイッチの「解除」を押し、点滅していることを確認する

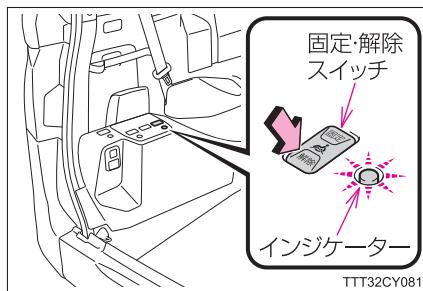


■車いすうしろ側が点滅（タイプI車いす2名仕様）

- ① 車いすうしろ側の固定・解除スイッチのインジケーターが点滅しているときは、前席・後席切替スイッチの「前席」を押す



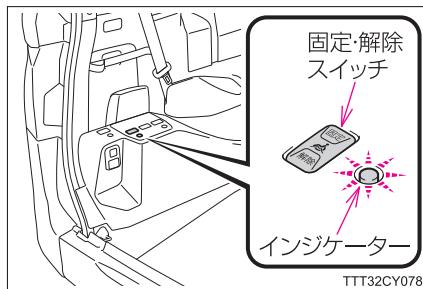
- ② 固定・解除スイッチの「解除」を押し、点滅していることを確認する



▶ 車いす後席

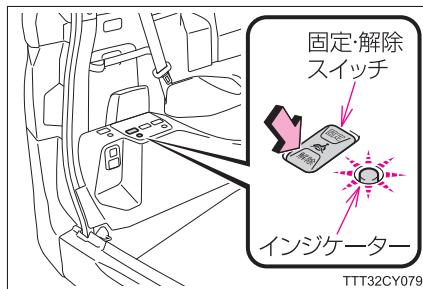
■ ランプが点滅

車いす後席側の固定・解除スイッチのインジケーターが点滅していることを確認する



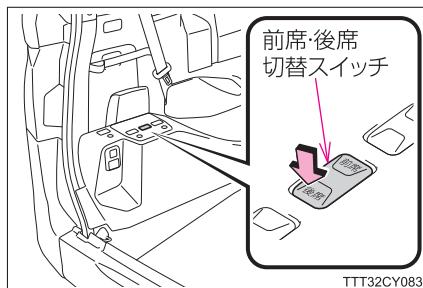
■ ランプが消灯

車いす後席側の固定・解除スイッチのインジケーターが消灯しているときは、固定・解除スイッチの「解除」を押し、点滅していることを確認する

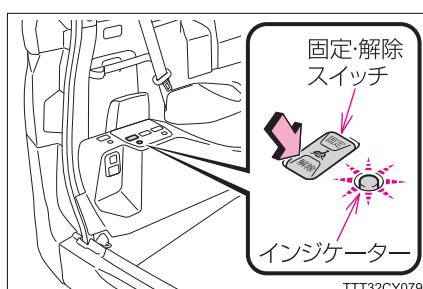


■ 車いす前席側が点滅（タイプI車いす 2名仕様）

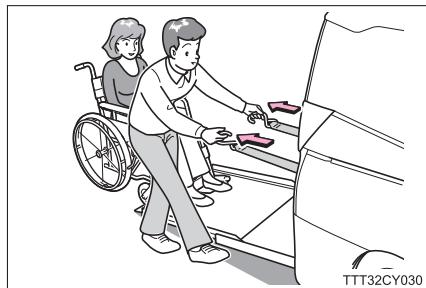
- ① 車いす前側の固定・解除スイッチのインジケーターが点滅しているときは、前席・後席切替スイッチの「後席」を押す



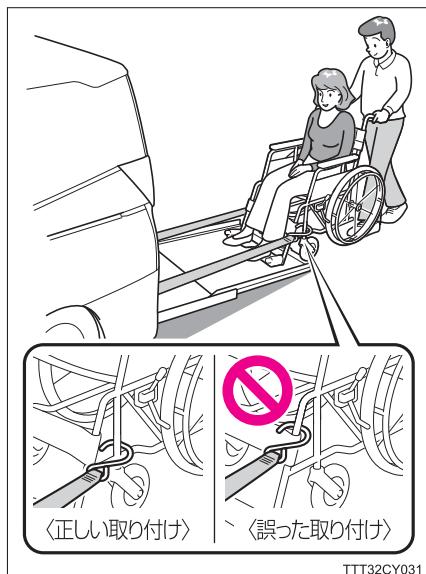
- ② 固定・解除スイッチの「解除」を押し、点滅していることを確認する



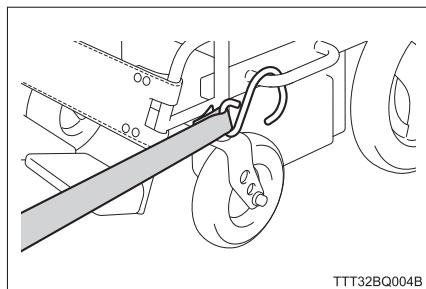
- 4 ベルトのフックを持ち、手動でベルトを引き出しながら、車いすに近付く
ベルトがねじれないように引き出します。



- 5 ベルトにねじりがない状態で、車いすの前部フレームのいちばん下の接合部にフックをかける



► 電動車いす（参考例）

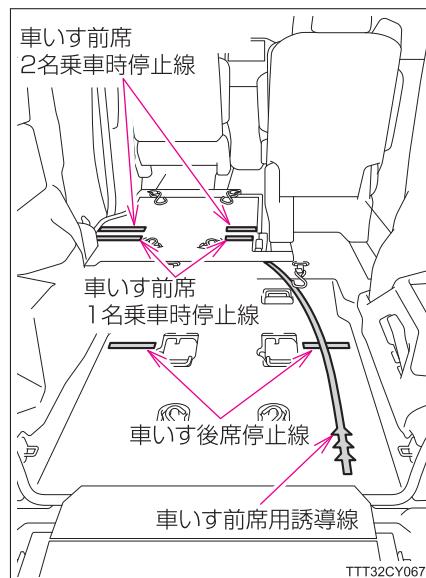


6 スロープが確実に接地していることを確認し、車いすのブレーキを両輪とも解除する

7 車いすを車内に乗り入れる

► セーフティベルト装着車

- 車いすの中央付近と車いす固定装置の中央付近を合わせた位置に乗り入れます。(中央付近を合わせた位置に乗り入れないと、セーフティベルトが車いす乗車の方の足やフットレストに引っかかる場合があります)
- 車いす乗車の方の足や車いすが他のシートにあたらないよう、注意しながら行います。
- セーフティベルトは車いすを車内に乗り入れ始めると、自動的に巻き取られます。
- セーフティベルトが巻き取られ始めると、固定・解除スイッチインジケーターが消灯し、後退防止機能が作動します。
- 車いすの右後輪を車いす前席用誘導線に沿わせて乗り入れることで、車いす前席に乗り入れがしやすくなります。



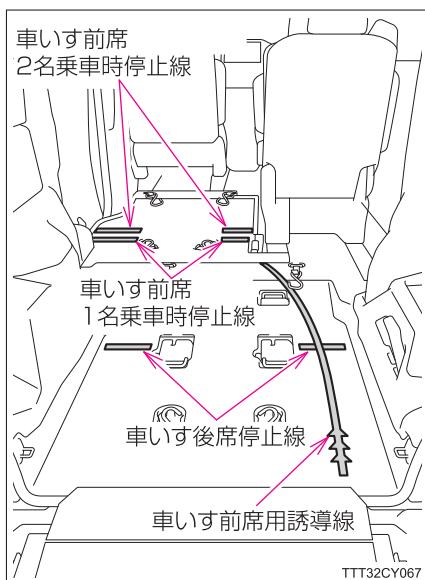
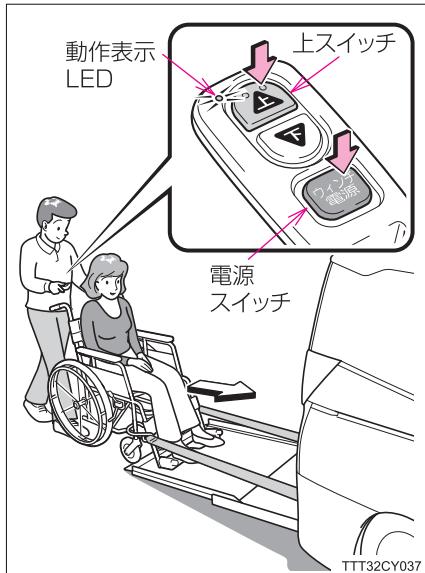
▶ 電動ウインチ装着車

- ① ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示LEDが赤色点灯中（6秒以内）に上スイッチを押し続ける

動作表示LEDが緑色点滅し、電動ウインチのベルトが巻き取られます。

- ② ベルトを巻き取りながら、車いすの中央付近と車いす固定装置の中央付近を合わせた位置に乗り入れる

- ・ 中央付近を合わせた位置に乗り入れないと、電動ウインチのベルトが車いす乗車の方の足やフットレストに引っかかる場合があります。
- ・ 車いす乗車の方の足や車いすが他のシートにあたらないよう、注意しながら行います。
- ・ ベルトが巻き取られ始めると、固定・解除スイッチインジケーターが消灯します。
- ・ 車いすの右後輪を車いす前席用誘導線に沿わせて乗り入れることで、車いす前席に乗り入れがしやすくなります。

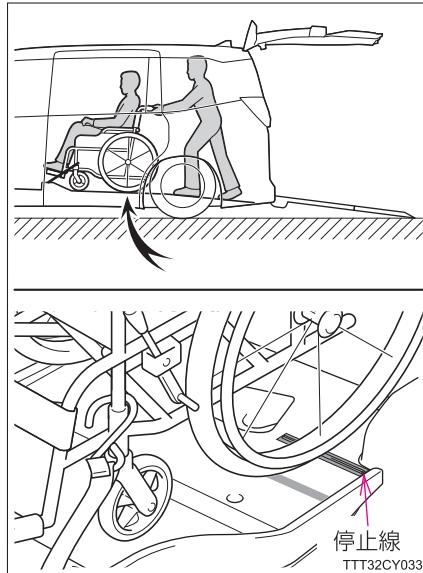


▶ 車いす前席

車いすの後輪が停止線の位置までゆっくり乗り入れる

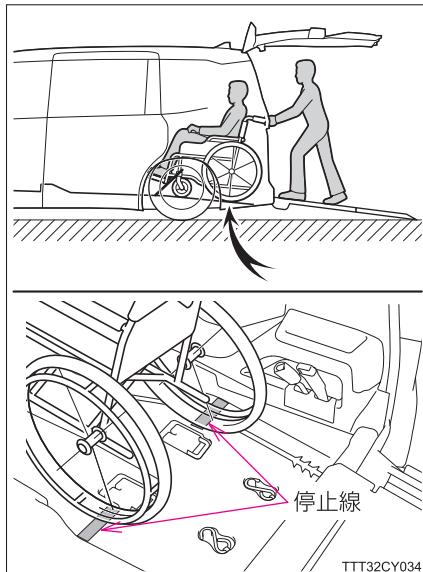
停止線には、凸状の段差があります。

(車いすを2名乗り入れる場合
→ P.77)



▶ 車いす後席

車いすの後輪が停止線の位置までゆっくり乗り入れる



以上で車いすの車内への乗り入れは完了です。次に車いすを車内に固定します。(→ P.88)

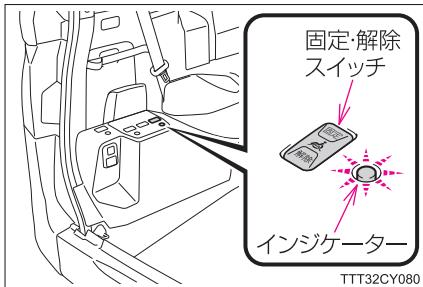
車いすを車外に降ろすときは

① 操作前に、次の状態を確認する

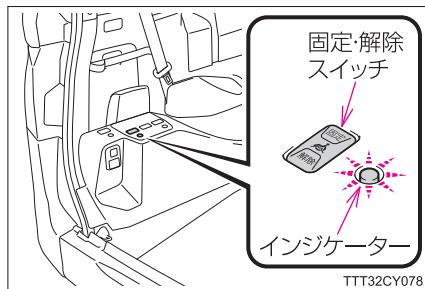
- ・車いす用シートベルトがはずされていること（→ P.101）
- ・車いすの固定が解除されていること（→ P.91）
- ・サードシートが格納されていること（車いす前席からの降車時：タイプ I → P.26）

② 車いすを車外に降ろす側の固定・解除スイッチのインジケーターが点滅していることを確認する

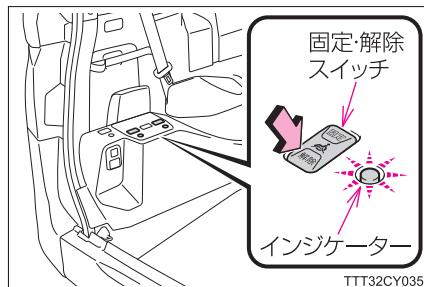
▶ 車いす前席



▶ 車いす後席



固定・解除スイッチのインジケーターが点滅していないときは、固定・解除スイッチの「解除」を押し、点滅していることを確認する



③ 車いすのブレーキを両輪とも解除する

4 車いすを車外に降ろす

► セーフティベルト装着車

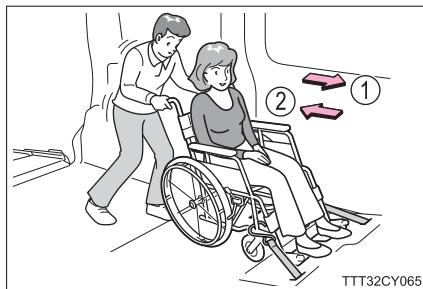
① 車いすを少し前に押す

インジケーターが点滅していない状態で車いすを少し前に押すとベルトが巻き取られます。

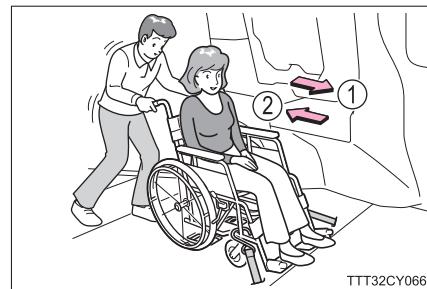
② 車いすを後退させる

- セーフティベルトのフックを付けたまま車外に降ろします。
- 後退防止作動を解除しているため、介助の方は車いすのハンドルをしっかりと持ってください。

■車いす前席



■車いす後席

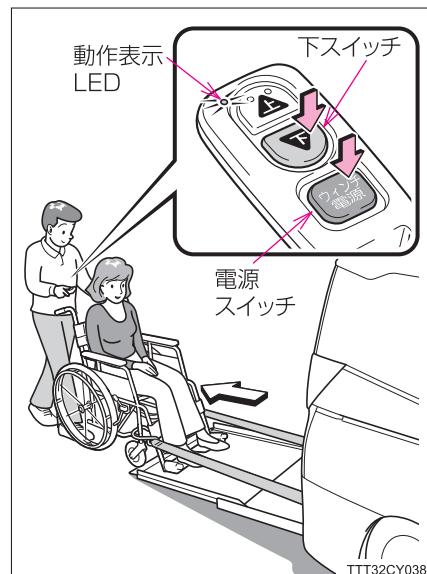


► 電動ウインチ装着車

① ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示LEDが赤色点灯中（6秒以内）に下スイッチを押し続ける

- 動作表示LEDが緑色点滅し、電動ウインチのベルトが引き出されます。
- 電動ウインチのベルトが引き出せないときは、P.81の知識「■電動ウインチのベルトが引き出せないときは」を参照してください。

② 車いすのハンドルをしっかりと持ち、ベルトを引き出しながら、車いすをスロープ外まで降ろしたら、スイッチから指を離す



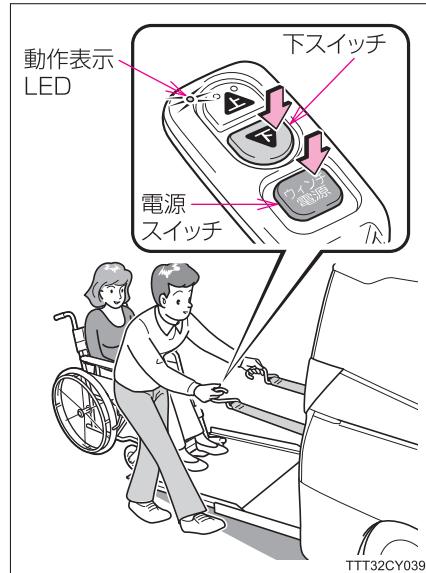
5 車いすのブレーキを両輪ともかける**6** ベルトのフックを手に持って車いすの前部フレームから取りはずす

▶ セーフティベルト装着車

フックを片方ずつ、車いすの前部フレームから取りはずす

▶ 電動ウインチ装着車

- ① ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中（6 秒以内）に下スイッチを押し続け、ベルトをゆるめる
- ② フックを片方ずつ、車いすの前部フレームから取りはずす

**7** ベルトがねじれないように最後まで手を添えて巻き取る

車いす前席のベルトは、仮置きバンドに引っかけておくこともできます。（→ P.78）

■ タイプI “車いす2名仕様”で車いすを2名乗り入れる場合

車いすを2名乗り入れる場合、車いす前席への車いすの乗り入れは次の状態で行います。

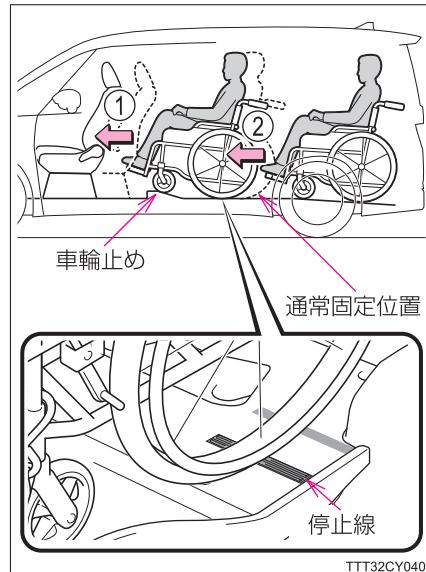
車いす後席は通常の乗り入れ・固定方法で行いますが、車いす後席に固定する車いす乗車の方の足元が窮屈になります。

① 助手席シートを前方にスライドさせる

助手席シートに乗車の方、および車いす前席に乗り入れる車いす乗車の方の足元が窮屈になります。

② 車いすの後輪が車両前側停止線の位置までゆっくり乗り入れる

- ・ 前側停止線には、凸状の段差が2本あります。
- ・ うしろ側停止線は、車いす1名乗車のときに使用します。



3

車いすの車内外への乗り降り

□ 知識

■ タイプI “車いす2名仕様”で車いすを2名乗り入れる場合の助手席シート位置について

助手席シートをいちばん前までスライドさせると、車いす前席に乗り入れる車いす乗車の方の足元は広くなりますが、助手席シートに着座できません。

■ 車いす前席用誘導線について

車いす前席用誘導線は、大きいサイズの車いすに合わせてあります。

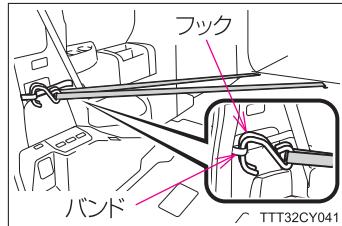
お使いの車いすによっては、車いす前席用誘導線より内側に沿わせたほうが乗り入れしやすい場合があります。

□ 知識

■ 車いす前席のベルト・フックについて

車いす前席のセーフティベルト★または電動ウインチ★のフックを取りはずしたあと、仮置きバンドに引っかけておくと、次に車いすを車内に乗り入れると、車内に入らずにベルト・フックを取り出すことができます。

使用するときは、左右のフックを引っかけて、使用してください。



■ 固定・解除スイッチについて

固定・解除スイッチは、何も操作しない状態が4分以上続くと、インジケーターが消灯し、巻き取りモード状態に切りかわります。

■ ベルトについて

- セーフティベルト★または電動ウインチ★がねじれていなことを確認してください。ベルトがねじれていると巻き取り不良になり、車いすを完全に車内に入れることができません。
- セーフティベルト★または電動ウインチ★を使用する前にベルトの点検をし、ベルトにほつれ・すり切れや折れる癖ができたり、正常に作動しなくなったときは、トヨタ販売店で交換してください。
- ベルトが汚れるとベルトのもどりが悪くなることがあります。ベルトのもどりが悪くなったときは、ベルトの清掃をしてください。(→ P.110)

知識

■後退防止作動について（セーフティベルト装着車）

セーフティベルトはベルトフリーモード以外のとき、常に後退防止状態を保持します。（作動条件→P.47）

作動条件	固定・解除スイッチ インジケーター	作動モード
すべて満たす	点滅	ベルトフリー
	消灯	後退防止作動

■車いすの上手な乗車・降車方法のポイント（セーフティベルト装着車）

お使いになっている車いすのタイプによっては、車いす乗車後、車いすとサードシート乗車の方やスロープ（スロープを格納した状態）などがあたる場合があります。このような場合は、次の確認および操作をしてください。

車いすとサードシート乗車の方やスロープなどがあたる
●車いすが左右傾いて固定されていませんか？
●乗車時に乗り入れ位置（→P.71, 73）まで車いすを乗り込ませましたか？）
車いすがうしろに下がってしまう
●固定・解除スイッチのインジケーターは消灯していますか？
●車いすのブレーキは両輪ともかかっていますか？

●降車時にセーフティベルトの後退防止作動が解除できないときは、車いすを少し前に出す、または車いすの後輪を少し持ち上げるなど、ベルトを少しゆるめます。

 知識

■電動ワインチの作動モードについて（電動ワインチ装着車）

- 電動ワインチはベルトフリーモード以外のとき、常に後退防止状態を保持します。
- 固定・解除スイッチのインジケーター点滅（ベルトフリーモード）時であっても、ワイヤレスリモコンを操作すると、インジケーターが自動的に消灯（ワインチ作動モード）に切りかわります。（作動条件→P.47）

作動条件	固定・解除スイッチ インジケーター	作動モード
すべて満たす	点滅	ベルトフリー
	消灯	ワインチ作動
1つでも満たさない	消灯	後退防止作動

■ワイヤレスリモコンの作動条件について（電動ワインチ装着車）

- ワイヤレスリモコンは、周囲の状況により作動可能範囲がかわることがあります。
- 周囲の電波状態により、上スイッチまたは下スイッチを押しても電動ワインチが作動しなくなることがあります。そのときはワイヤレスリモコンでの操作位置をかえて操作してください。
その際、スイッチは押し直してください。押し続けたまま操作位置をかえても電動ワインチは作動しません。

■ワイヤレスリモコンについて（電動ワインチ装着車）

- 電源スイッチを押してから6秒以内（動作表示LEDが赤色点灯中）に上スイッチまたは下スイッチを押さないと、自動的に電源が切れます。（動作表示LED消灯）
- 上スイッチまたは下スイッチを押すと、電源はスイッチから指を離した時点より6秒延長します。
- 電動ワインチ作動中に上スイッチまたは下スイッチから指を離すと、電動ワインチの作動は停止します。
- 電動ワインチは上スイッチまたは下スイッチを断続的に押しても電動ワインチは作動しません。
- 複数のスイッチを同時に押すと、電動ワインチは作動しません。
- ワイヤレスリモコンは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。
 - ・電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
 - ・必ず日本国内でご使用ください。

知識

- ワイヤレスリモコンの送信機または受信機のどちらかのみを交換したときは、IDコードを登録する必要があります。登録はトヨタ販売店にお申し付けください。

■ ワイヤレスリモコンの電池について（電動ウインチ装着車）

- 電池寿命は約1年間です（1回の操作時間を30秒、1日の操作回数を20回で計算した場合）。ただし、電池寿命は実際の使用状況によってかわります。
- ワイヤレスリモコンを操作しても電動ウインチが作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、または動作表示LEDが点灯しなくなったり、点滅しなくなったり場合は、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。電池はお客様自身で交換できます。（→P.123）

■ 航空機に乗るときは（電動ウインチ装着車）

航空機にワイヤレスリモコンを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレスリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 参考：電動ウインチ性能について*（車いす前席用：電動ウインチ装着車）

作動時間	条件
30秒	負荷荷重 0.8kN {80kgf}

*：エンジンをかけた状態（ハイブリッドシステムを作動状態）

■ 電動ウインチのベルトが引き出せないとときは（電動ウインチ装着車）

- 電動ウインチのベルトを手動で引き出す際、固定・解除スイッチを押し、ベルトフリーモードにしても、まれにベルトが引き出せないことがあります。このときはベルトに力が加わっていない状態で再度固定・解除スイッチを押し、ベルトフリーモードにするとベルトが引き出せます。再度操作をしてもベルトが引き出せないとときはトヨタ販売店に連絡してください。
- 車いすを車内に乗り入れた際、車いすの後輪を持ち上げるなどにより、電動ウインチのベルトが過剰に巻き取られた場合、車いすを車外に降ろすときにベルトが引き出せなくなることがあります。このときは車いすを少し前に出す、または車いすの後輪を少し持ち上げるなど、ベルトを少しゆるめた状態でワイヤレスリモコンの電源スイッチを押してから下スイッチを押すと、ベルトが引き出せます。

▲警告

■車いす仕様車（スロープタイプI・II）の操作をするときは

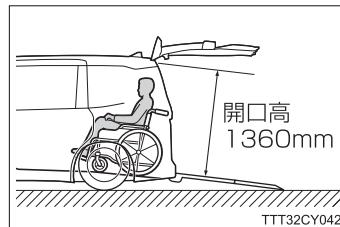
- 操作はすべて介助の方が行い、車いす乗車の方に合図し、安全に十分注意しながら行ってください。
 - ・ 車いす乗車の方が操作すると、手足を挟まれたり、車いすがスロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 急に車いすの乗降を行うと、車いすが転倒するおそれがあり危険です。（車いすを車外に降ろすときは特にご注意ください）
 - ・ 車内を移動するときは、車いす乗車の方の手足や腕がシートなどに挟まらないように注意してください。
- 風の強い場所や風雨の強い日、また降雨時や降雪時など悪天候のときはスロープがすべりやすいので注意してください。
スロープ表面がぬれていますとすべりやすくなります。スロープ表面の水分をふき取ってから使用してください。
雨天時など、完全に水分をふき取れない場合は、足元に十分注意してください。
- 介助の方は、車いすに乗車されている方の手や足が車いすの内側にあることを確認してください。
車内の部品やシートで手や足を挟み、けがをするおそれがあります。
- 介助の方が車いすから離れるとき（ベルトのフックの脱着時や固定・解除スイッチ操作時など）は、車いすのブレーキを両輪とも確実にかけてください。
車いすのブレーキを両輪ともかけずに車いすから離れると、車いすが自重で後退するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■車いすの車内外への乗降操作をするときは

- スロープに乗降するときは足元に注意し、スロープ中央を通ってください。
中央以外を通ると足を踏みはずし、スロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
傾斜したスロープは車いすがバランスをくずしやすく、脱輪や転倒のおそれがあります。車いすの動きに注意し、ゆっくり乗降してください。

▲警告

- スロープ展開後、スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。
段差やスロープ下部にものがあたるなどにより、スロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏みはずして転倒したり、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれもあります。
- スロープに車いすをのせたときは、不要なスイッチ類を押したり、シフトレバー／シフトポジションを P 以外の位置にしないでください。
装置の不意な作動により、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 車高切替スイッチの「上」を押すと、スロープの角度がかわり、車いすから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 固定・解除スイッチを押し、インジケーターが点滅（ベルトフリー モードに移行）すると、後退防止作動が解除され、車いすがスロープから滑り落ちるなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ シフトレバー／シフトポジションを P 以外の位置にすると、車高が自動復帰するため、スロープの角度がかわり、車いすが転落するおそれがあり危険です。
- 車内外に乗降するときは、バックドア・ドア開口部および天井に頭をぶつけないように注意してください。
スロープに車いすを乗り入れるときや乗り入れ後に車外へ出る（もどる）とき、頭上の注意がおろそかになりやすいので、バックドア端部やバックドア開口部に注意してください。
- 車いすをいきおいよく押し込まないでください。
車いす乗車の方がシートや車内の部品にあたり、けがをするおそれがあります。



▲警告

- 車いすを車内に乗り入れるときは、必ず車いすの中央付近と車いす固定装置の中央付近を合わせた位置に乗り入れてください。
中央付近に乗り入れないと、セーフティベルト★または電動ワインチ★のベルトが車いす乗車の方の足や車いすのフットレストに引っかかる場合があります。そのまま車いすを固定すると、車いす乗車の方がけがをしたり、車いすの固定が不十分になり、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いすは必ず所定の位置まで乗り入れてください。(セーフティベルト装着車→P.71, 73／電動ワインチ装着車→P.72, 73／車いす2名乗車時→P.77)
車いすが所定の位置まで乗り入れていないと、正しく固定できない場合があります。
 - ・車いす前席への乗り入れ位置がうしろすぎると、サードシート乗車の方や車いす後席の車いす乗車の方に車いすがあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・車いす後席への乗り入れ位置が前すぎると、車いす乗車の方の足がセカンドシートや車いす前席に乗り入れた車いすにあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・車いす後席への乗り入れ位置がうしろすぎると、車いす後輪がスロープにあたり、スロープを完全に格納することができません。そのままバックドアを閉めると、スロープとバックドアが傷付くおそれがあります。
- 車いすを車内に乗り入れたときは、セーフティベルト★または電動ワインチ★のフックを車いすの前部フレームから取りはずさないでください。
セーフティベルト★または電動ワインチ★は車いす前側の固定装置として使用します。セーフティベルト★または電動ワインチ★のフックを車いすの前部フレームから取りはずした状態では車いすが固定されず、走行中に車いすが動き出し、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いすを車外に降ろすときは、車いすのブレーキは介助の方が解除し、車いすが不意に動き出さないよう、介助の方がしっかり支えてください。
しっかり支えていないと、車いすのブレーキが解除されたとたん、車いすが動き出し、スロープからすべり落ちるなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- セーフティベルト★または電動ワインチ★のフックを車いすから取りはずすときは、手に持ってゆっくりと行ってください。
フックから急に手を離すと、ベルトがいきおいよく巻き取られ、けがをするおそれがあります。

⚠️ 警告

■車いすの車内外への乗降操作をするときは（セーフティベルト装着車）

車いすを車外に降ろすときは、固定・解除スイッチを押す前に車いすのブレーキを解除しないでください。

先に車いすのブレーキを解除すると、固定・解除スイッチの「解除」を押して、ベルトフリーにされたとたん、車いすが動いて重大な事故につながるおそれがあり危険です。

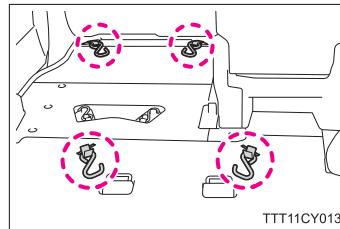
■電動ウインチを使用するときは（電動ウインチ装着車）

●電動ウインチは車いすの車内外への乗り降り専用です。電動ウインチを使用して人やものを引き上げないでください。

電動ウインチの故障やベルトの損傷につながったり、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●電動ウインチ作動時、ベルトやベルト巻き取り部にふれないでください
ベルトの巻き取り不良やベルト巻き取り部に手などを巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

○：ベルト巻き取り部



⚠️ 警告

■車いすの車内外への乗降操作をするときは（電動ウインチ装着車）

電動ウインチを使用して車いすを車内外に乗降するときは、介助の方は必ず車いすのうしろで操作し、車いすのハンドルをしっかり支えながら乗り入れてください。

車いすを車内に乗り入れるとき、車いすのハンドルをしっかり支えていないと、車いすの前輪が停止後、前のめりになることがあります。お子さまや体重の軽い方が車いすに乗車されているときは、特に注意してください。（電動ウインチは車いすの乗降を補助するためのものであり、自動で乗降するための装置ではありません）

■電波がおよぼす影響について（電動ウインチ装着車）

医療用電気機器（以下を除く）を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

- 植込み型心臓ペースメーカー
- 植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ
- 植込み型除細動器

⚠ 注意

■ 故障・破損を防ぐために

- ベルトがねじれていなことを確認してください。
ベルトがねじれていると巻き取り不良になり、車いすを完全に車内に入れることができません。
- フックを車いすにかける時はフットレスト周辺の部品に強くあたらないようにしてください。またベルト周辺にベルトを傷つける恐れがある物がある場合はベルトが傷付かないように保護してください。

■ 故障・破損を防ぐために（電動ウインチ装着車）

- 断続的にワイヤレスリモコンの上スイッチまたは下スイッチを押さないでください。
故障の原因になりますので、スイッチは押し続けてください。（断続的にスイッチを押しても電動ウインチは作動しません）
- 電動ウインチのベルトの巻き取りができない状態（ベルトが車内のものに引っかかって動かない、ベルトがねじれて巻き取れない場合など）のときは、ワイヤレスリモコンの上スイッチを押し続けないでください。
故障の原因になります。ベルトの巻き取りができないときは、ワイヤレスリモコンの下スイッチを押し続けて少しベルトを引き出してから、障害物やベルトのねじれなどを取り除き、再度ワイヤレスリモコンの電源を入れ、上スイッチを押し続けて巻き取ってください。
- ワイヤレスリモコンは電子部品のため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ ダッシュボードの上など、直射日光のあたる場所および高温になるところに置かない
 - ・ 分解しない
 - ・ 落としたり、踏むなどの強い衝撃を与えない
 - ・ 飲料水などをこぼしたり、水たまりなど、水中に落下させない
(防滴構造ですが、できるだけ水にぬらさないでください)
- ワイヤレスリモコンの清掃にシンナー・ガソリン・ベンジンなどの溶剤を使用しないでください。
表面が変形するおそれがあります。清掃するときは、水またはぬるま湯を布などに含ませ、固くしぼってからふいてください。

車いすの車内での固定・解除

ここでは P.39 の「乗車可能な車いす」のサイズを満たす車いすの固定方法を記載しています。

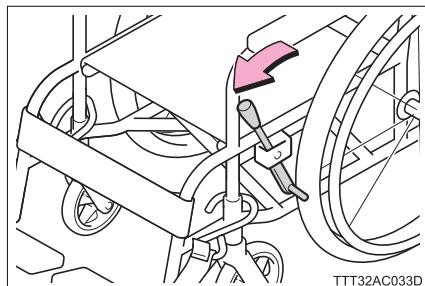
リクライニング車いすや電動車いすなどを固定するときは、専用の固定ベルトを使用してください。(専用の固定ベルトはトヨタ販売店で購入することができます)

操作前の確認事項

車いす固定装置の作動条件を確認してください。(\rightarrow P.47)

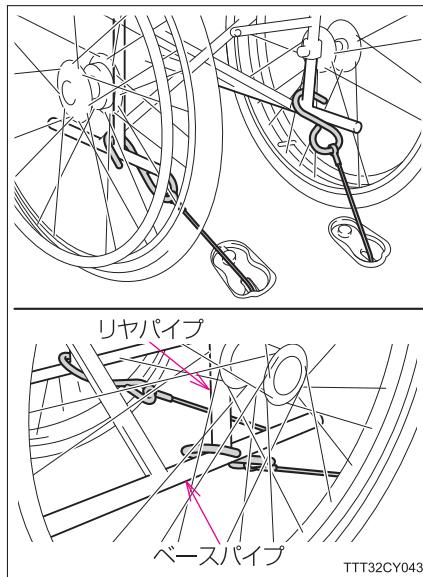
車いすを固定するときは

- ① 操作前に、車いすが所定の位置まで乗り入れていることを確認する
(セーフティベルト装着車 \rightarrow P.71, 73 / 電動ウインチ装着車 \rightarrow P.72, 73)
- ② 車いすのブレーキを両輪ともかける



- 3** 車いす固定装置のフックを収納部から取りはずして引き出し、フックを車いすの後部フレームに引っかける

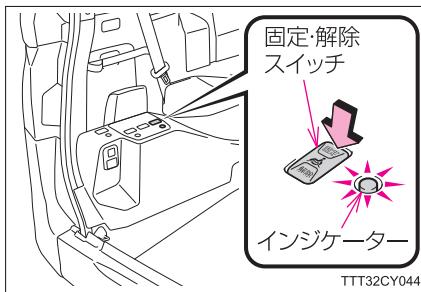
リヤパイプとベースパイプ接合部にフックを引っかけます。



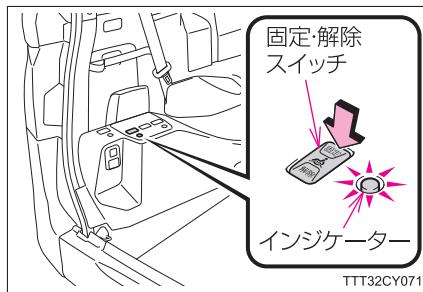
- 4** 固定・解除スイッチの「固定」ボタンを押し、車いすを固定する

- 「固定」ボタンを押すと車いす固定装置フック（うしろ側）、セーフティベルト／電動ウインチ（前側）の順に巻き取り固定します。
- 車いすが固定されると、インジケーターが点灯します。インジケーターが点灯したことを確認してください。

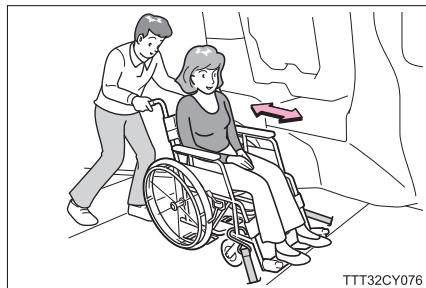
▶ 車いす前席



▶ 車いす後席



- 5** 車いすを前後にゆすり、ベルトまたはワイヤーにたるみがなく、車いすが確実に固定されていることを確認する（イラストは車いす後席での固定）



以上で車いすの固定は完了です。次に車いす用シートベルトを着用します。（車いす前席→ P.96／車いす後席→ P.98）

■車いすを固定後に車いすの位置を直したい場合

車いすの後輪やハンドルがサードシート乗車の方やスロープにあたるなど車いすの固定が不十分で位置を直したい場合は、次の手順で固定をやり直してください。

▶車いすを前に動かす場合

- ① 固定・解除スイッチの「解除」を 1 回押し、車いすの固定を解除する
- ② フックを車いすの後部フレームから取りはずす
- ③ 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ④ 車いすを所定の位置まで動かす
- ⑤ P.88 の**②**からの操作を行う

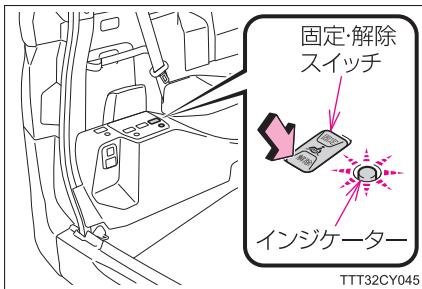
▶車いすをうしろに動かす場合

- ① 固定・解除スイッチの「解除」を 2 回押し、車いすの固定を解除し、ベルトフリーモードにする
- ② フックを車いすの後部フレームから取りはずす
- ③ 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ④ 車いすを所定の位置まで動かす
- ⑤ P.88 の**②**からの操作を行う

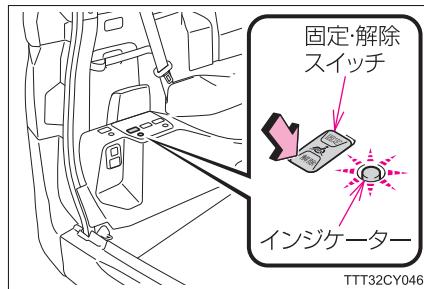
車いすの固定を解除するときは

- ① 操作前に、車いす用シートベルトがはずしてあることを確認する
(→ P.101)
- ② 固定・解除スイッチの「解除」を押してインジケーターが点滅し、ベルトまたはワイヤーが完全にゆるむのを確認する。

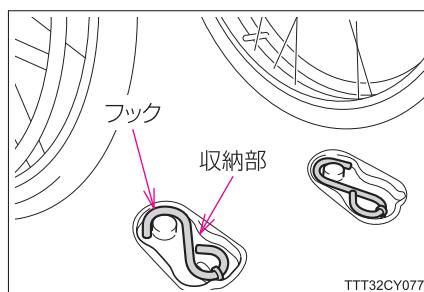
▶ 車いす前席



▶ 車いす後席



- ③ 車いす固定装置のフックを車いすの後部フレームから取りはずす
- ④ 車いす後席のフックは収納部に挿し込む



 知識

■車いす固定装置について

車いす固定装置は、P.47 の作動条件をすべて満たす場合に作動します。作動条件を 1 つでも満たさない場合は、固定・解除スイッチを押しても車いす固定装置は作動しません。

作動条件	固定・解除スイッチ	車いす固定装置
すべて満たす	固定	巻き締まり
	解除	ゆるむ
1 つでも満たさない	固定	作動条件をすべて満たしていたときの状態を保持
	解除	

■ベルトについて（車いす前席）

- 車いす乗り入れ前にベルトの点検をし、ベルトにほつれ・すり切れや折れる癖ができたり、正常に作動しなくなったときは、トヨタ販売店で交換してください。
- ベルトが汚れるとベルトの巻き取りがしづらくなることがあります。ベルトの巻き取りがしづらくなったときは、ベルトの清掃をしてください。（→ P.110）

■ワイヤーについて（車いす後席）

- 車いす乗り入れ前にワイヤーの点検をし、ワイヤーにほつれ・すり切れができたり、正常に作動しなくなったときは、トヨタ販売店で交換してください。
- ワイヤーが汚れるとワイヤーのもどりが悪くなることがあります。ワイヤーのもどりが悪くなったときは、ワイヤーの清掃をしてください。（→ P.111）



警告

■車いすを固定するときは

- 車いすを固定する前に、セーフティベルト★または電動ウインチ★のベルトが車いす乗車の方の足や車いすのフットレストに引っかかっていないことを確認してください。
そのまま車いすを固定すると、車いす乗車の方がけがをしたり、車いすの固定が不十分になり、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- フックを扱うときは、フックをしっかりと持ってください。
車いす固定装置のベルトおよびワイヤーは自動巻き取り式のため、しっかりと持たないとフックやベルトおよびワイヤーが手などにあたり、けがをするおそれがあります。
- 車いす固定装置のフックを車いすのフレームに脱着するときは、フックとフレームとのあいだで指などを挟まないよう注意してください。
- 車いすを固定したときは、車いすを前後にゆすり、ベルトおよびワイヤーにたるみがなく、確実に固定されていることを確認してください。
固定がはずれると走行中に車いすが動きだし、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・固定を確認しているときに、車いすとフックとのあいだで手を挟まないように注意してください。
 - ・ベルトおよびワイヤーにねじれがないことを確認してください。ベルトおよびワイヤーがねじれていると十分に固定できない場合があります。
 - ・車いすの固定が不十分なときは、車いすの固定位置およびフックを引っかける位置を確認後、固定・解除スイッチの「解除」を押し、操作をやり直してください。
 - ・車いすが所定の位置よりずれたときは、固定・解除スイッチの「解除」を押し、操作をやり直してください。(→P.90)
 - ・固定・解除スイッチの「固定」を押しても車いす固定装置が作動しないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 車いす後席の車いす固定装置のフックを取りはずしたときは、必ずフックを収納部にもどしてください。
フックを放置したままだと車いすを車外に降ろすとき、車いすにフックが引っかかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車いす固定装置使用中、ベルトおよびワイヤーが傷付いたりほつれたりした場合は、すぐにトヨタ販売店でベルトおよびワイヤーの交換を行ってください。
そのまま使い続けると、走行中に車いすの固定がはずれ、車いす乗車の方が転倒するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 故障・損傷などを防ぐために

車いす固定装置のフックを車いすに引っかけるときは、フックのベルトおよびワイヤーが車いすのフレームの縁などにあたっていないことを確認してください。

ベルトおよびワイヤーが損傷するおそれがあります。

■ 故障・損傷などを防ぐために

車いす後席の車いす固定装置のフックを収納部に収納したまま、固定・解除スイッチの「固定」を押さないでください。

車いす固定装置が故障するおそれがあります。

車いす用シートベルト

3点式のシートベルトです。

体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で体が前へ倒れそうなときには、ベルトが自動的にロックされ体を固定します。

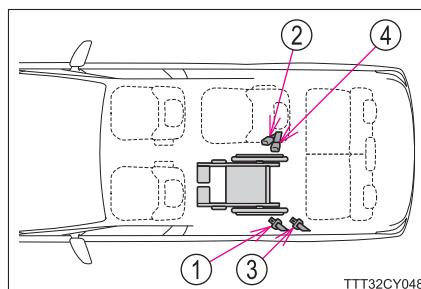
シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の方法に従って走行前に必ず着用してください。

シートベルトの着用は介助の方が行ってください。

シートベルトの構成

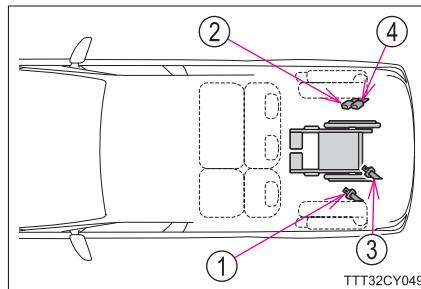
◆ 車いす前席（タイプI）

- ① 腰部ベルト用プレート
- ② 腰部ベルト用バックル
- ③ 肩部ベルト用プレート
- ④ 肩部ベルト用バックル



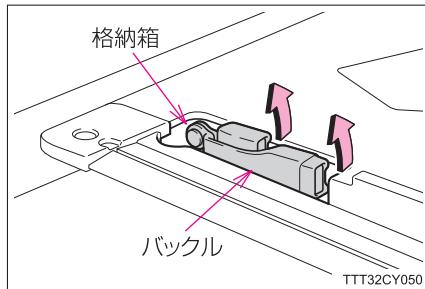
◆ 車いす後席（タイプI “車いす2名仕様”／タイプII）

- ① 腰部ベルト用プレート
- ② 腰部ベルト用バックル
- ③ 肩部ベルト用プレート
- ④ 肩部ベルト用バックル



車いす前席での着用のしかた（タイプI）

- ① バックルを格納箱から引き起こす

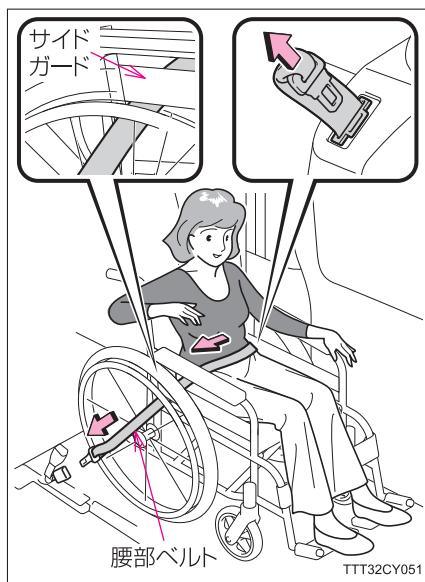


- ② 腰部ベルトを持って引き出す

ベルトにねじれがないことを確認しながら引き出します。

- ③ 腰部ベルトを車いすの左右のアームレストの下側および車いすのスポークのあいだを通して、腰部ベルトを装着する

- ・ “カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込みます。
- ・ バックルは短いものを使用してください。
- ・ サイドガードの下にスペースがある車いすをご使用の場合、サイドガードの下を通してください。



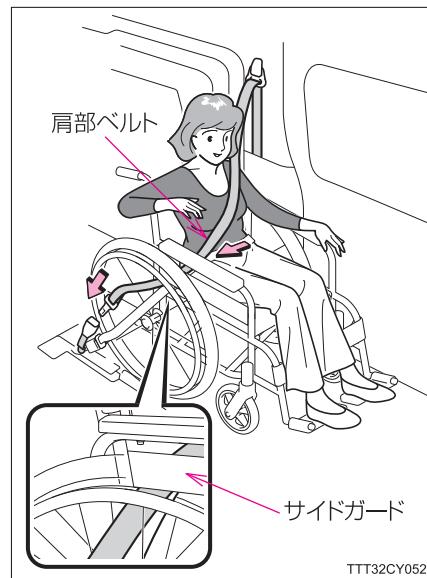
4 肩部ベルトを持って引き出す

ベルトにねじれがないことを確認しながら引き出します。

5 肩部ベルトを車いす右側のアームレストの下側および車いすのスプークのあいだを通して、肩部ベルトを装着する

“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込みます。

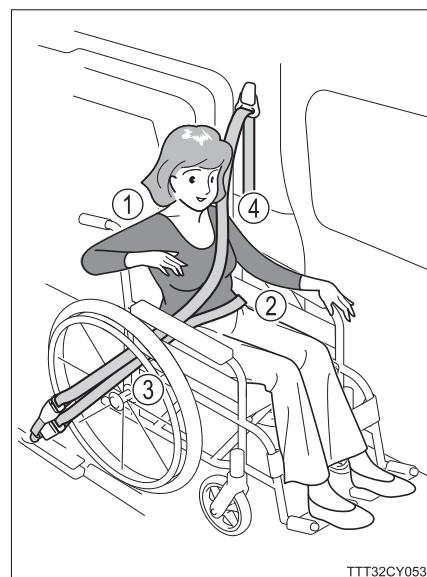
- ・サイドガードの下にスペースがある車いすをご使用の場合、サイドガードの下を通してください。



■正しく着用するには

シートベルトを調整し、ベルトにねじれがないことを確認し、次のように正しく着用する

- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② 腰部ベルトを車いすの左右のアームレストの下側および車いすのスプークのあいだを通して、腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- ③ 肩部ベルトを車いす右側のアームレストの下側および車いすのスプークのあいだを通す
- ④ 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。



車いす後席での着用のしかた（タイプI “車いす2名仕様”／タイプII）

① 腰部ベルトを持って引き出す

ベルトにねじれがないことを確認しながら引き出します。

② 腰部ベルトを車いすの左右のアームレストの下側および車いすのスロークのあいだを通して、腰部ベルトを装着する

- ・“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込みます。
- ・バックルは前側のものを使用してください。
- ・サイドガードの下にスペースがある車いすをご使用の場合、サイドガードの下を通してください。



TTT32CY087

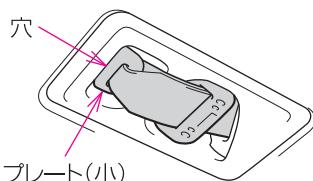
③ 肩部ベルト※のプレートを格納箱から取り出す

- ① プレート（小）を格納箱の穴から引き抜く

- ② プレート（大）を格納箱の凸部からはずす

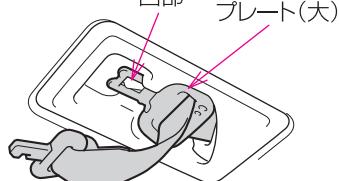
※：車いす後席の車いす用シートベルトの肩部ベルトは、サイドシート中央席のシートベルトと共に用いています。

①



プレート(小)

②



凸部

プレート(大)

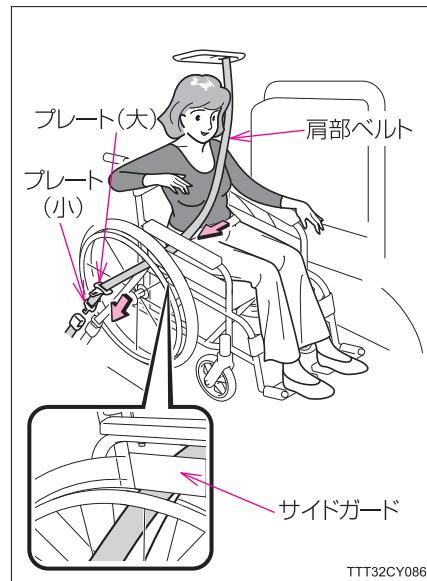
TTT32CY055

4 肩部ベルトを持って引き出す

ベルトにねじれがないことを確認しながら引き出します。

5 肩部ベルトを車いす右側のアームレストの下側および車いすのスプークのあいだを通して、肩部ベルトを装着する

- ・“カチッ”と音がするまでプレート(小)をバックルに挿し込みます。
- ・プレート(大)は下側にたらしておきます。
- ・サイドガードの下にスペースがある車いすをご使用の場合、サイドガードの下を通してください。



■正しく着用するには

シートベルトを調整し、ベルトにねじれがないことを確認し、次のとおりに正しく着用する

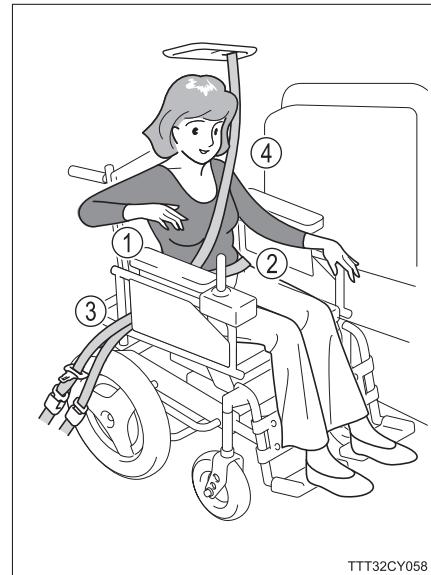
- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② 腰部ベルトを車いすの左右のアームレストの下側および車いすのスプークのあいだを通して、腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- ③ 肩部ベルトを車いす右側のアームレストの下側および車いすのスプークのあいだを通して
- ④ 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。



電動車いすでのシートベルトの着用（参考例）

電動車いすでシートベルトを着用するときは、ベルトにねじれがないことを確認し、次のとおりに正しく着用してください。

- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② 腰部ベルトを車いすの左右のアームレストの下側および車いすのサイドガードのあいだを通し、腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- ③ 肩部ベルトを車いす右側のアームレストの下側および車いすのサイドガードのあいだを通す
- ④ 肩部ベルトを肩に十分かける首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。



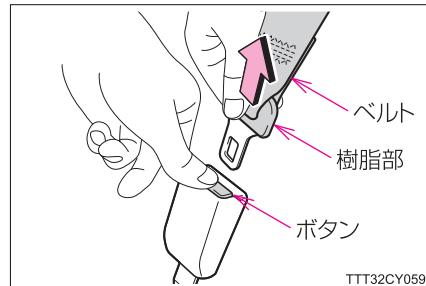
TTT32CY058

はずし方

① バックルのボタンを押してプレートをはずす

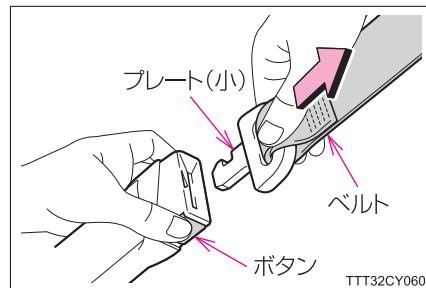
▶ 車いす後席の肩部ベルト用バックル以外

- ① プレートの樹脂部とベルトを持つ
- ② バックルのボタンを押す
- ③ プレートの樹脂部とベルトを持ったまま、ベルトを巻き取らせる



▶ 車いす後席の肩部ベルト用バックル（タイプI “車いす2名仕様”／タイプII）

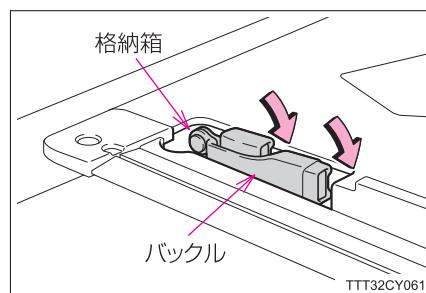
- ① プレート（小）とベルトを持つ
- ② バックルのボタンを押す
- ③ プレート（小）とベルトを持ったまま、ベルトを巻き取らせる



② 着用した位置の車いす用シートベルトのバックルおよびプレートを格納する

▶ 車いす前席のバックル（タイプI）

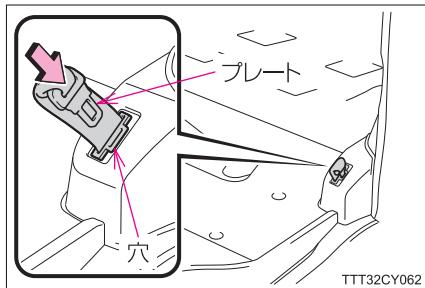
バックルを格納箱に格納する



▶ 車いす前席の腰部ベルト（タイプI）

プレートを穴に挿し込み収納する

ベルトにねじれがなく、確実に挿し込まれたことを確認してください。

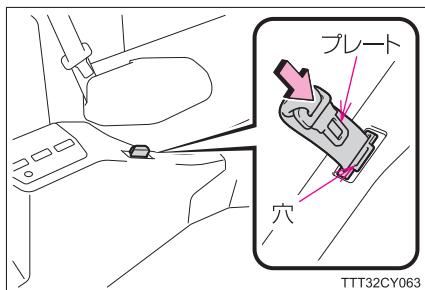


TTT32CY062

▶ 車いす後席の腰部ベルト（タイプI “車いす2名仕様”／タイプII）

プレートを穴に挿し込み収納する

ベルトにねじれがなく、確実に挿し込まれたことを確認してください。

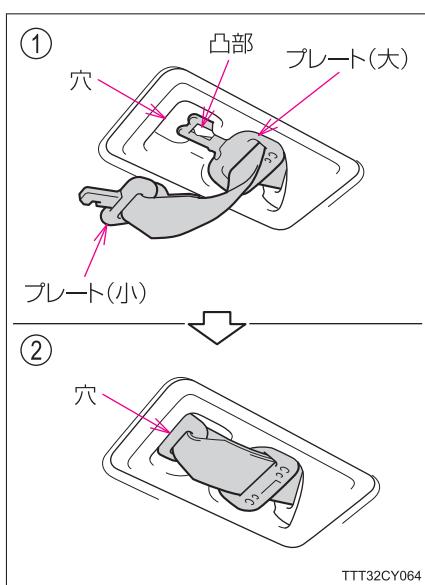


TTT32CY063

▶ 車いす後席の肩部ベルト（タイプI “車いす2名仕様”／タイプII）

① プレート（大）の穴を、格納箱の凸部にはめ込む

② プレート（小）を格納箱の穴に挿し込む



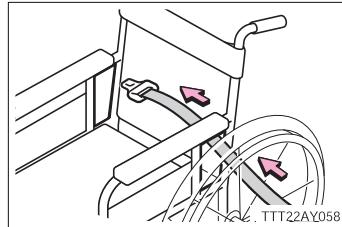
TTT32CY064

知識

■急停止や衝撃があったときシートベルトがロックしたまま引き出せないときは一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

■車いすのサイドガード後部にスペースがある車いすをご使用の場合

右図のように腰部ベルトを通すと、腰骨のより低い位置に腰部ベルトがかけられます。



警告

■シートベルトを着用するときは

- シートベルトの着用は必ず介助の方が行い、正しく着用されていることを確認してください。
シートベルトは正しく着用しないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 3点式シートベルトは必ず肩部ベルトと腰部ベルトの両方を着用してください。
- シートベルトを着用するときは、必ず車いすが固定されていることを確認してください。
車いすの固定が悪いと車いすが動き出し、車いす乗車の方のシートベルトが正しく着用できなくなり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトは必ずアームレストの下側およびスローク、サイドガードのあいだを通してください。
シートベルトがアームレストにかかった状態で着用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車いす後席の肩部ベルトは、必ずプレート（大）も取り出してください。
プレート（大）をルーフ部の格納箱に残したままにしておくと、プレート（大）がはずれたとき、車いす乗車の方の顔や頭にあたり、けがをするおそれがあります。

⚠️ 警告

■ シートベルトをはずすときは

プレートをバックルからはずすときは、必ずプレートの樹脂部を手で持ってからバックルのボタンを押してください。

プレートの樹脂部を持ってはずさないと、プレートがいきおいよくもどり、顔などにあたり、けがをするおそれがあります。

■ シートベルトを着用しないときは

●車いす前席の車いす用シートベルトを着用しないときは、必ずバックルを格納箱に格納してください。

バックルが格納されていないと、車いす乗降時および車内での移動時、つまずいて転倒したり、バックルを破損するおそれがあります。

●車いす後席の車いす用シートベルトを着用しないときは、必ず肩部ベルトを格納箱に格納してください。

肩部ベルトが確実に格納されていないと、車いす乗降時、肩部ベルトが頭にあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

走行する前に

車いす用シートベルト着用後、車両を次の状態にします。

- ① スロープを格納する (→ P.50)

- ② バックドアを閉める

バックドアが車いすにあたらないことを確認しながらゆっくりと閉めます。

- ③ シートを次のように調整する

▶ タイプIの助手席シート

車いす乗車の方にあたらないことを確認しながら、前後位置・背もたれ角度を調整する

▶ セカンドシート

車いす乗車の方にあたらないことを確認しながら、前後位置・背もたれ角度を調整する

▶ タイプI(車いす1名乗車時)のサードシート

サードシートに乗車するときは、サードシートを着座状態にする
(→ P.29)

⚠️ 警告**■車いすを車内に乗り入れたときは**

- タイプIで車いす前席に車いすを乗り入れたときは、助手席シートの後方スライドや背もたれをうしろ側に倒す操作を急激に行わないでください。
助手席シートの操作を急激に行うと、車いす乗車の方にあたり、けがをするおそれがあります。車いす乗り入れ後、助手席シートの調整をするときは、車いす乗車の方にあたらないことを確認しながらゆっくりと行ってください。
- 車いす後席に車いすを乗り入れたときは、セカンドシートの後方スライドや背もたれをうしろ側に倒す操作を急激に行わないでください。
セカンドシートの操作を急激に行うと、車いす乗車の方にあたり、けがをするおそれがあります。車いす乗り入れ後、セカンドシートの調整をするときは、車いす乗車の方にあたらないことを確認しながらゆっくりと行ってください。

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

スロープの清掃	108
ベルトの清掃	110
車いす固定装置の清掃.....	111

4-2. 簡単な点検・部品交換

ガレージジャッキ	112
----------------	-----

スロープの清掃

スロープの引き出しレール部に泥や小石、砂などの異物がつまると、スロープの引き出し・格納操作ができなくなります。

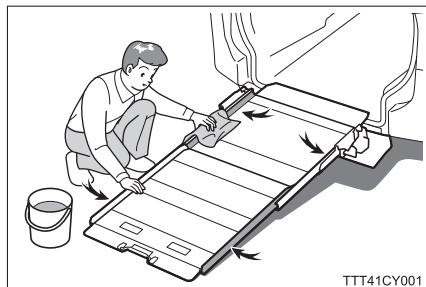
スロープの清掃は、次のように行ってください。

スロープの清掃のしかた

- ① 安全で平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバー／シフトポジションを P の位置にし、エンジン（ハイブリッドシステム）を停止する
- ② バックドアを全開にする
- ③ スロープを展開する（→ P.49）
- ④ スロープを清掃する

▶ 引き出しレール部

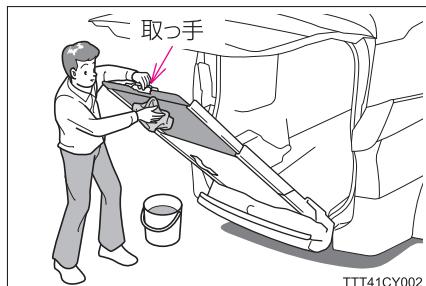
- ① 泥や小石、砂などの異物があつたらブラシなどを使用して取り除く
- ② 水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る



▶ スロープ全体

水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る

スロープを持ち上げた状態でスロープ裏面などを清掃するときは、片方の手でスロープ先端の取っ手を持ってスロープを持ち上げ、もう片方の手で清掃します。



⚠ 警告

■スロープを清掃するときは

- 必ずエンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止してください。
誤って車高切替スイッチが押された場合、不意に車高が変化し、手足を挟まれ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- スロープの可動部や端部、突起部などを清掃するときは、手や指を挟まないよう、十分注意してください。
- スロープを持ち上げた状態でスロープ裏面などを清掃するときは、必ず片方の手でスロープ先端の取っ手を持ってスロープを持ち上げてください。
スロープ先端の取っ手以外の部分を持つと、手を挟まれけがをするおそれがあります。

ベルトの清掃

セーフティベルト★または電動ウインチ★のベルト、車いす前席の車いす固定装置のベルト（タイプIのみ）および車いす用シートベルトが汚れたときは、次のように清掃を行ってください。

清掃のしかた

中性洗剤かぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る

乾くまで使用しないでください。

▲警告

■ベルトを清掃するときは

- ベルトの清掃にベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤を使用しないでください。
有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤を使用すると、ベルトの性能が低下し、十分な効果を発揮せず、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでベルトを使用しないでください。
- ベルトを清掃するときは、フックまたはプレートをしっかりと持ち、ベルトの状態を確認しながら行ってください。
ベルトが不意に巻き取られ、けがをするおそれがあります。

車いす固定装置の清掃

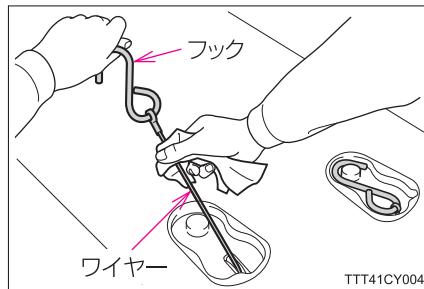
車いす後席の車いす固定装置（タイプI “車いす2名仕様”／タイプII）のワイヤーが汚れると、ワイヤーのもどりが悪くなることがあります。次の方法でワイヤーを清掃してください。

車いす前席の車いす固定装置（タイプI）はベルト式になります。清掃方法はP.110の「ベルトの清掃」を参照してください。

清掃のしかた

フックを持ってワイヤーを引き出し、清掃します。

- ① ワイヤーに砂やほこりなどの汚れが付着していたら、ワイヤーの状態を確認しながら、ゆっくりとやわらかい布などで汚れをふき取る
- ② 潤滑剤を湿らせた布で再度ワイヤーをふく



TTT41CY004

⚠ 警告

■車いす固定装置を清掃するときは

車いす固定装置に水をかけないでください。

電気部品に水がかかって故障の原因になったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

万一、電気部品に水がかかってしまった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ワイヤーを清掃するときは

- フックをしっかりと持ち、ワイヤーの状態を確認しながら行ってください。
フックから急に手を離すとワイヤーが不意に巻き取られ、けがをするおそれがあります。

- ワイヤーに直接ふれないでください。

ワイヤーに傷やほつれがあった場合、けがをするおそれがあります。

- ・ ワイヤーがほつれている場合は、ワイヤーの交換が必要です。車いす固定装置をそのまま使用せず、トヨタ販売店にご相談ください。

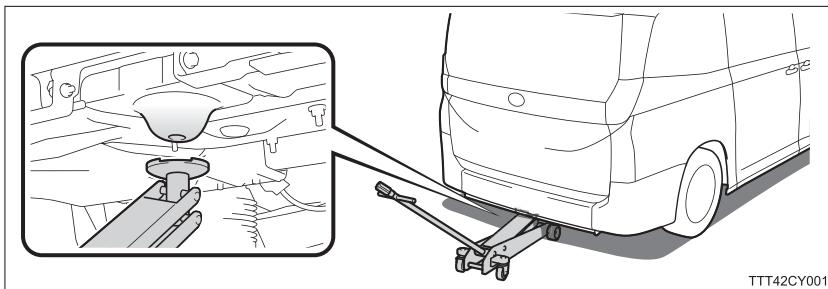
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

フロント側のセット位置およびお守りいただきたいことは標準車と同様ですので、標準車取扱書の「ガレージジャッキ」を併せて参照してください。

リヤ側のガレージジャッキのセット位置



⚠ 警告

■車両を持ち上げるときは

必ずエンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止してください。

エンジンがかかった状態〈ハイブリッドシステムを作動状態〉だと、オートレベルリング機能※により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※：乗員の数や荷物などの積載条件がかわっても、常に一定の高さになるよう、自動で車高を制御する機能

万一の場合には

5

5-1. パンクしたときは

工具・ジャッキの取り出し... 114

5-2. 故障かな?と お考えになる前に

ヒューズの交換 119

車高降下装置が
作動しないときは..... 122

ワイヤレスリモコンの電池交換
(電動ワインチ装着車) 123

5-3. 緊急時の対処法

セーフティベルトが引き出せ
ない・後退防止作動しない
ときは(セーフティベルト
装着車) 126

電動ワインチが作動しないときは
(電動ワインチ装着車) 128

車いす固定装置が
作動しないときは..... 131

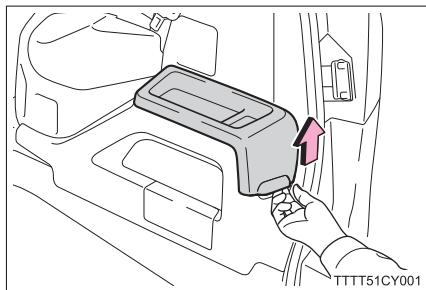
工具・ジャッキの取り出し★

車内右側後部に装備されます。

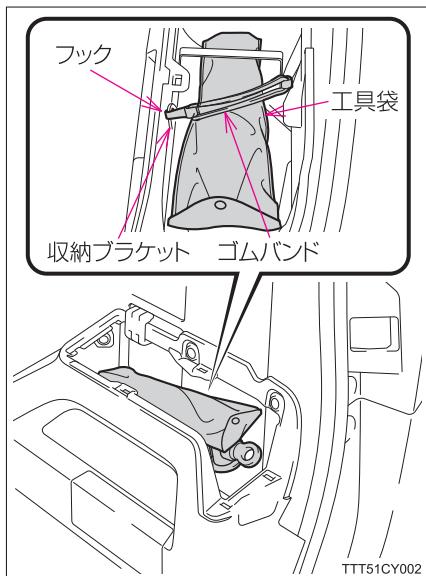
工具・ジャッキの取り扱いについては、標準車取扱書の「パンクしたときは」を併せて参照してください。

工具袋・ジャッキの取り出し

- ① 安全で平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバー／シフトポジションを P の位置にし、エンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止する
- ② ジャッキカバーの取っ手部分を持って上方向に引き上げ、ジャッキカバーを取りはずす



- ③ ゴムバンドのフックを収納ブラケットからはずす

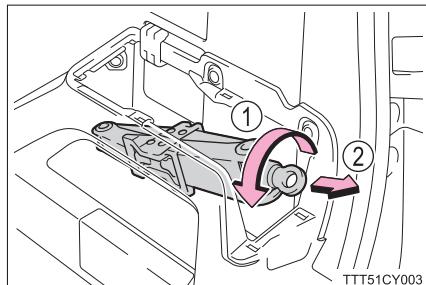


4 工具袋を格納部から引き抜いて取り出す

5 ジャッキを取り出す

① ジャッキのネジ部を左にまわし、ジャッキを縮める

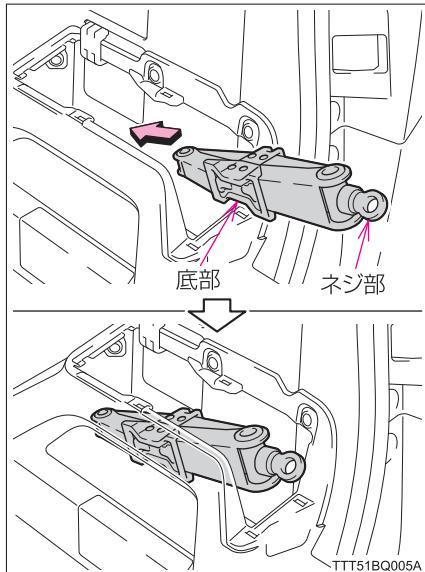
② 格納部から引き抜く



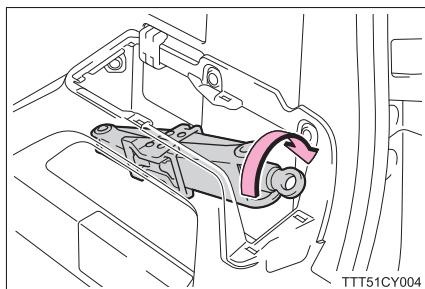
工具袋・ジャッキの格納

- 1** ジャッキの底部を車両内側・ネジ部を車両後方に向け、格納部に挿し込む

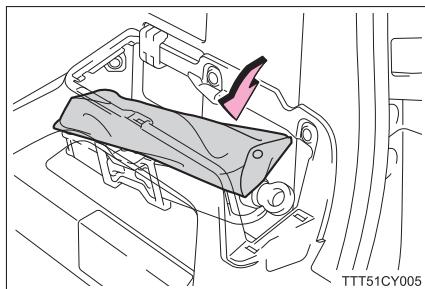
格納部に沿わせ、奥まで収納してください。(正しい向きで奥まで挿し込まないと、ジャッキカバーが閉められません)



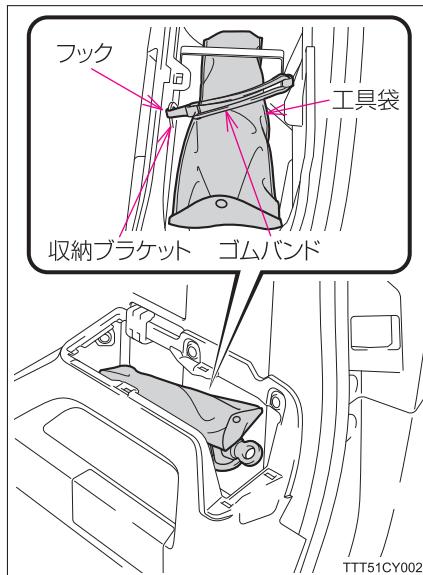
- 2** ジャッキのネジ部を右にまわしてジャッキを広げ、ジャッキが動かないようにする



- 3** 工具袋をジャッキの上に置く



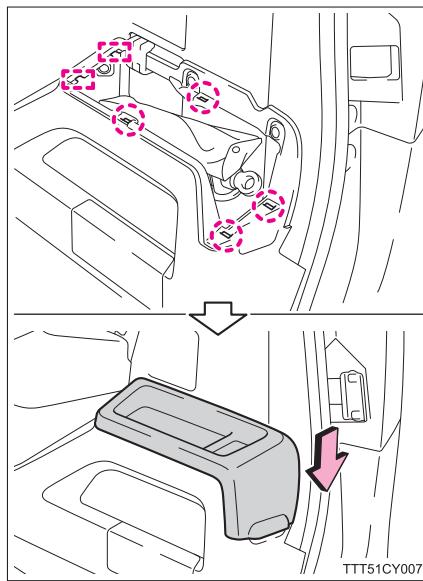
4 ゴムバンドのフックを収納ブラケットにかける



5 ジャッキカバーを元にもどす

ジャッキカバーをトリム部の穴に挿し込み、ツメ（2ヶ所）を確實にはめ込みます。

- ：トリム部穴
- ：ツメ挿し込み部



 知識**■ タイヤパンク応急修理キットについて**

この車両には応急用タイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときにタイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。タイヤパンク応急修理キットの使用方法は標準車と同様ですので、標準車取扱書の「パンクしたときは」を併せて参照してください。

タイヤパンク応急修理キットを取り出すときは、仮置きバンドを取り外してからカバーを取り外します。

 警告**■ 工具・ジャッキの取り出し・格納をするときは**

ゴムバンドの取り付け・取りはずし時、指などを挟まないように注意してください。

■ 工具・ジャッキを使用したあとは

所定の場所に確実に保管してください。

車室内などに放置すると、乗降時につまずいたり、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、工具が飛んできて乗員にあたるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ 工具・ジャッキ格納部について

工具・ジャッキ以外のものを入れないでください。
けがをするおそれがあります。

 注意**■ 破損を防ぐために**

ジャッキカバーを取りはずすときは、ツメに無理な力が加わらないようにしてください。

ツメが破損するおそれがあります。

ヒューズの交換

ヒューズを点検する前に、各装置ごとの作動条件（→ P.47）をすべて満たしていることを確認してください。

作動条件を確認したにもかかわらず、装置が正常に作動しないときは、ヒューズの点検を行ってください。

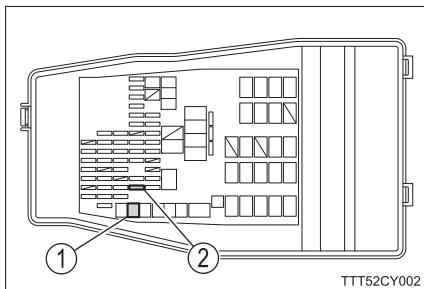
ヒューズが切れたときは、必ず規定容量のヒューズと交換してください。

ヒューズ位置

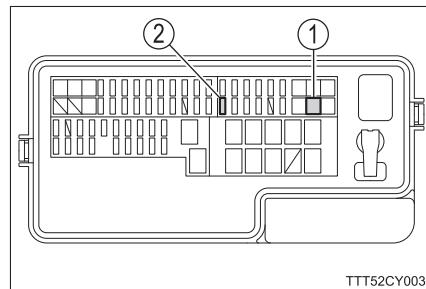
■ エンジンルーム左側ヒューズボックス

エンジンルーム左側ヒューズの点検・交換方法については、標準車取扱書の「ヒューズの点検・交換」をお読みください。

▶ ガソリン車



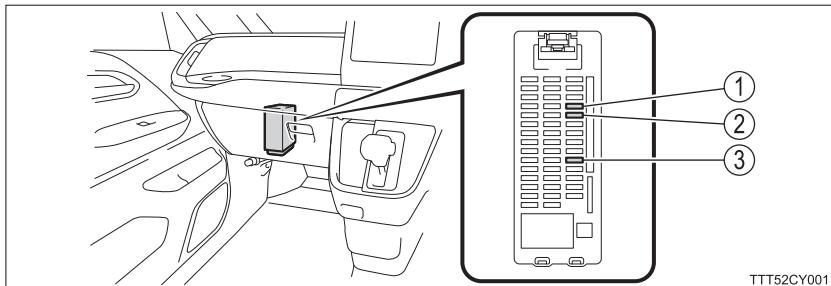
▶ ハイブリッド車



ヒューズ名称	アンペア数	使用装置
(1) AIR SUS	50A	車高降下装置
(2) WELCAB NO.2	7.5A	車いす固定装置

■助手席足元ヒューズボックス

助手席足元ヒューズの点検・交換方法については、標準車取扱書の「ヒューズの点検・交換」をお読みください。



ヒューズ名称	アンペア数	使用装置
① WELCAB	30A	助手席リフトアップチルトシート
② WELCAB NO.4	20A	車いす固定装置
③ WELCAB NO.3	20A	車いす固定装置

 知識**■車高降下装置について**

- 車高降下・復帰操作をくり返し（目安として4分間に3回以上）行うと、エアサスペンションのコンプレッサの過熱防止（保護）のため、しばらく作動しなくなることがあります、ヒューズ切れではありません。
- メーター内の車高調整インジケーターおよび左リヤデッキサイド部の車高降下装置異常ランプが黄色点灯した場合は、車高降下装置のシステムに何らかの異常が発生していますので、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。（→P.57）

■ヒューズを交換したあとは

次の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 交換しても再びヒューズが切れるとき
- 交換しても電気系統の装置が働かないとき

 警告**■車の故障や火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しない
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用する
- ヒューズやヒューズボックスを改造しない

車高降下装置が作動しないときは

次の処置をしてください。

作動条件の確認

作動条件をすべて満たしていることを確認してください。(\rightarrow P.47)

ヒューズの点検・交換

作動条件をすべて満たしていても作動しない場合は、ヒューズを点検・交換してください。(\rightarrow P.119, 120)

作動条件の確認およびヒューズの点検・交換をしても作動しない場合

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

修理が完了するまで、絶対にスロープに車いすを乗せないでください。

■走行可能な車高の場合

そのまま運転してトヨタ販売店で点検を受けてください。

■走行できない車高の場合

次の方法で車高復帰（上昇）させ、そのまま運転してトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 1 車高調整スイッチの「上」を押す
- 2 パーキングブレーキを確実にかける
- 3 エンジンをかけた状態（ハイブリッドシステムを作動状態）
- 4 ブレーキペダルを踏んでシフトレバー／シフトポジションをP以外の位置に動かし、周囲の安全を確認後、ブレーキペダルから足を離す
 - ・車高復帰忘れ防止機能により、車高が復帰（上昇）します。（ \rightarrow P.55）
 - ・ブレーキペダルを踏んだままだと車高復帰しません。シフトレバー／シフトポジションを動かしたあと、必ずブレーキペダルから足を離してください。
 - ・車高復帰が完了すると、メーター内の車高調整インジケーターが消灯します。（ \rightarrow P.51）
 - ・車高が変化しなかった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

ワイヤレスリモコンの電池交換（電動ウインチ装着車）

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

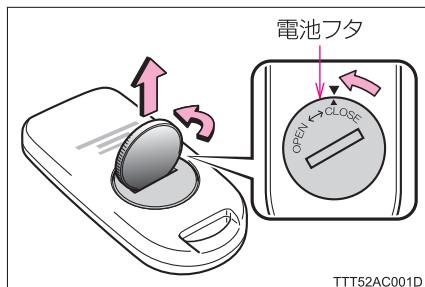
用意するもの

- コインなど、電池フタの溝に挿し込めるもの
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

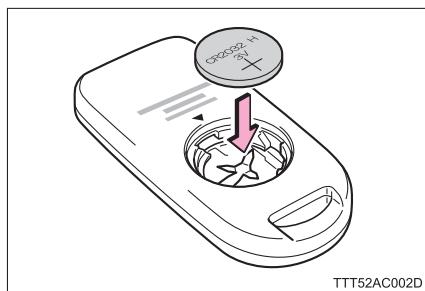
1 電池フタをはずす

コインなどを電池フタの溝に挿し込み、▲マークが合う位置まで OPEN 側にまわし、電池フタをはずします。



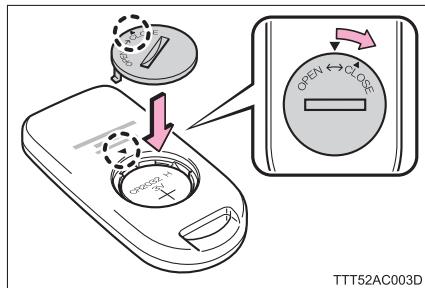
2 電池を交換する

電池を取り出し、新しい電池の+側を上（電池フタ側）にして挿入します。



3 電池フタをはめる

- ・電池フタと送信機の▲マークを合わせてはめます。
- ・コインなどを電池フタの溝に挿し込み、CLOSE 側にまわし、電池フタを締め込みます。



4 作動確認をする

電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中（6 秒以内）に上スイッチまたは下スイッチを押して、動作表示 LED が緑色点滅することを確認します。

 **知識****■ リチウム電池 CR2032 の入手**

電池はトヨタ販売店、時計店、カメラ店などで購入できます。

 **警告****■ ワイヤレスリモコンの電池について**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- ワイヤレスリモコンにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

 **注意****■ 交換後、正常に機能させるために**

次のことをお守りください。

- 電池交換時に部品を紛失しない
- 電池フタを曲げたりしない
- 電池以外の部品にふれたり、動かしたりしない
- 電池の+極と-極は必ず正しい向きにして挿入する
- 電池挿入部の電極を曲げたり、ゴミや油などを付着させない

セーフティベルトが引き出せない・後退防止作動しないときは（セーフティベルト装着車）

次の処置をしてください。

作動条件の確認

作動条件をすべて満たしていることを確認してください。（→ P.47）

ヒューズの点検・交換

作動条件をすべて満たしていても後退防止作動をしない場合は、ヒューズを点検・交換してください。（→ P.119, 120）

作動条件の確認およびヒューズの点検・交換をしてもセーフティベルトが引き出せない・後退防止作動しない場合

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
修理が完了するまで、絶対に車いすを乗せないでください。

■ 車いすを車外に降ろすことができなくなったときは

万一、セーフティベルトが引き出せず、車いすを車外に降ろすことができなくなったときは、次の方法で車いす乗車の方を降ろしてください。

▶ 車いす乗車の方のみ車外に降ろすときは

① スライドドアを全開にする

- ・ タイプIの車いす前席の車いす乗車の方を車外に降ろすときは、助手席側スライドドアを全開にします。
- ・ 車いす後席の車いす乗車の方を車外に降ろすときは、車いす乗車の方を降ろしやすい側のスライドドアを全開にします。

② 車いす乗車の方を降ろす

▶ 車いすと車いす乗車の方を車外に降ろすときは

① バックドアを開け、スロープを展開する（車高降下装置が作動する場合は車高を降下させる）

② セーフティベルトをはさみで切断する（左右とも）

③ 車いすのブレーキを両輪とも解除後、すぐに車いすのハンドルをしっかりと持つ

④ 車いすを少し後方へ下げ、再度ブレーキを掛ける

⑤ 固定装置のフックを取りはずす

⑥ 車いすのブレーキを解除し、車外へ降ろす

■ セーフティベルトが巻き取れないときは

セーフティベルトに雪や雨などが付着したり、寒冷時においてセーフティベルトが凍結した場合、セーフティベルトの巻き取りができなくなることがあります。

セーフティベルトの巻き取りができないときは、セーフティベルトに付着した雨や雪などをふき取ってから、セーフティベルトを巻き取ります。

電動ワインチが作動しないときは（電動ワインチ装着車）

次の処置をしてください。

作動条件の確認

作動条件をすべて満たしていることを確認してください。（→ P.47）

ワイヤレスリモコンの確認

電池が消耗すると、次の症状が現れます。（電池寿命は約 1 年間です）

- 著しく作動可能距離が短くなる
- 動作表示 LED が点灯しなくなる
- 動作表示 LED が点滅しなくなる

いずれかにあてはまる場合は電池を交換してください。（→ P.123）

■ ワイヤレスリモコンの紛失・電池切れしたとき

固定・解除スイッチの「解除」を押すとベルトフリーモードになり、手動でベルトが引き出せます。（→ P.67）

車いすにベルトをかけて、一定時間（約 4 分以上）待機、または、ベルトを巻き戻すと固定・解除スイッチインジケーターが消灯し、巻き取りモード（後退防止状態）になります。車いすを車内に乗り入れ固定・解除スイッチの「固定」を押すことで、車いすを固定できます。

■ 車いすが車内に乗り入れた状態でワイヤレスリモコンの紛失・電池切れしたときは

次の方法で車いすを車外に降ろします。

- ① 固定・解除スイッチの「解除」を押し、ベルトフリーモードにする
 - ② 車いすのブレーキを両輪とも解除後、すぐに車いすのハンドルをしっかりと持つ
 - ③ 車いすを一度、少し前に押してから車いすを引き、車いすを車外に降ろす
- このとき、後退防止作動が解除されていますので、ご注意ください。
- ④ 車いすのブレーキを両輪ともかける
 - ⑤ ベルトのフックを手に持って、フックを片方ずつ、車いすの前部フレームから取りはずす
 - ⑥ ベルトがねじれないように最後まで手を添えて巻き取る

ヒューズの点検・交換

作動条件およびワイヤレスリモコンの電池を確認しても作動しない場合は、ヒューズを点検・交換してください。(→ P.119, 120)

作動条件・ワイヤレスリモコンの電池確認およびヒューズの点検・交換をしても作動しない場合

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
修理が完了するまで、絶対に車いすを乗せないでください。

■ 車いすを車外に降ろすことができなくなったときは

万一、電動ウインチが手動でも作動しなくなり、車いすを車外に降ろすことができなくなったときは、次の方法で車いす乗車の方を降ろしてください。

▶ 車いす乗車の方のみ車外に降ろすときは

① スライドドアを全開にする

- ・ タイプIの車いす前席の車いす乗車の方を車外に降ろすときは、助手席側スライドドアを全開にします。
- ・ 車いす後席の車いす乗車の方を車外に降ろすときは、車いす乗車の方を降ろしやすい側のスライドドアを全開にします。

② 車いす乗車の方を降ろす

▶ 車いすと車いす乗車の方を車外に降ろすときは

① バックドアを開け、スロープを展開する（車高降下装置が作動する場合は車高を降下させる）

② セーフティベルトをはさみで切断する（左右とも）

③ 車いすのブレーキを両輪とも解除後、すぐに車いすのハンドルをしっかり持つ

④ 車いすを少し後方へ下げ、再度ブレーキを掛ける

⑤ 固定装置のフックを取りはずす

⑥ 車いすのブレーキを解除し、車外へ降ろす

■ 手動でベルトが巻き取れないときは

電動ウインチのベルトに雪や雨などが付着したり、寒冷時においてベルトが凍結した場合、手動でベルトの巻き取りができなくなることがあります。手動でベルトの巻き取りができないときは、ベルトに付着した雨や雪などをふき取ってから、ベルトを巻き取ります。

⚠ 警告

■車いすを車内に乗り入れた状態で、電動ウインチをベルトフリーモードにするときは

車いすが急に下がらないよう十分注意してください。

ベルトフリーモードにするとときは、車いすのブレーキが両輪ともかかっていることを確認し、車いすのブレーキを両輪とも解除後、車いすが急に下がらないよう、介助の方がしっかりと車いすを支えてください。

車いす固定装置が作動しないときは

次の処置をしてください。

作動条件の確認

作動条件をすべて満たしていることを確認してください。(\rightarrow P.47)

ヒューズの点検・交換

作動条件をすべて満たしていても作動しない場合は、ヒューズを点検・交換してください。 $(\rightarrow$ P.119, 120 $)$

作動条件の確認およびヒューズの点検・交換をしても作動しない場合

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

修理が完了するまで、絶対に車いすを乗せないでください。

■ 車いすを車外に降ろすことができなくなったときは

万一、車いす固定装置が作動しなくなり、車いすを車外に降ろすことができなくなったときは、次の方法で車いす乗車の方を降ろしてください。

► 車いす乗車の方のみ車外に降ろすときは

① スライドドアを全開にする

- ・ タイプIの車いす前席の車いす乗車の方を車外に降ろすときは、助手席側スライドドアを全開にします。
- ・ 車いす後席の車いす乗車の方を車外に降ろすときは、車いす乗車の方を降ろしやすい側のスライドドアを全開にします。

② 車いす乗車の方を降ろす

► 車いすと車いす乗車の方を車外に降ろすときは

① バックドアを開け、スロープを展開する（車高降下装置が作動する場合は車高を降下させる）

② セーフティベルトをはさみで切断する（左右とも）

③ 車いすのブレーキを両輪とも解除後、すぐに車いすのハンドルをしつかり持つ

④ 車いすを少し後方へ下げ、再度ブレーキを掛ける

⑤ 固定装置のフックを取りはずす

⑥ 車いすのブレーキを解除し、車外へ降ろす

点検・整備項目

6

6-1. 点検・整備項目

定期点検整備 134

定期点検整備

故障を減らして長く大切に使うために、定期点検整備をお願いします。
点検結果を記録する際には、巻末の記録簿を A4 サイズにコピーして使用してください。

点検整備項目	点検時期			交換時期	備考		
	日常点検	自家用車					
		12か月ごと	24か月ごと				
スロープ	各部取り付け部	ゆるみ、損傷	<input type="radio"/>		取り付け部のゆるみ、スロープ本体の損傷、取っ手(スロープ先端・左側)・リヤバンパー部ロックの締め付け状態		
	各部のガタ		<input type="radio"/>		格納(起立)時ロック・前倒れ・展開状態のガタ		
	各部の機能	作動状態	<input type="radio"/>		ロック解除レバー・操作レバーのもどり不良、スロープ引き出し・格納・前倒れ・展開操作の異音・荷重、バックドアの閉まり具合		

* : 空欄については点検および交換の必要はありません。

点検整備項目	点検時期			交換時期 (年)	備考		
	日	自家用車					
	常点検	12か月ごと	24か月ごと				
リヤエアサスペンション	エアサスペンション						
	取り付け部のゆるみ		○		締め付けトルクが基準値内にあること		
	損傷		○		エアサスペンションに亀裂・傷など損傷がないこと		
	コンプレッサ						
	ゆるみ、ガタ		○		締め付けトルクが基準値内にあること		
	作動中の異音		○		異音がないこと		
	配管・ジョイント部						
	損傷		○		損傷・エアもれがないか点検する		
	ベルトの損傷(タイプI “車いす2名仕様”は前後2ヶ所とも同様に点検する)						
	ほつれ、すり切れ、折れ癖	○			損傷があれば交換		
セーフティベルト	機能(タイプI “車いす2名仕様”は前後2ヶ所とも同様に点検する)						
	引き出し、巻き取りの状態	○			汚れがある場合は清掃		
	ロック状態	○					
	ベルトの損傷(タイプI “車いす2名仕様”は前後2ヶ所とも同様に点検する)						
	ほつれ、すり切れ、折れ癖	○			損傷があれば交換		
電動ワインチ	機能(タイプI “車いす2名仕様”は前後2ヶ所とも同様に点検する)						
	引き出し、巻き取りの状態	○			汚れがある場合は清掃		
	ロック状態	○					

* : 空欄については点検および交換の必要はありません。

点検整備項目	点検時期			交換時期 備考	
	日常点検	自家用車			
		12か月ごと	24か月ごと		
		(年)	(年)		
車いす固定装置	ベルト・ワイヤーの損傷(車いす前席用はベルトタイプ、車いす後席用はワイヤータイプ)	傷、ほつれ	<input type="radio"/>	損傷があれば交換	
	機能(タイプI “車いす2名仕様”は前後2ヶ所とも同様に点検する)	引き出し、巻き取りの状態	<input type="radio"/>	汚れがある場合は清掃	
	ロック状態	○			
シート車いす用ベルト	ベルトの損傷	ほつれ、すり切れ、折れ癖	<input type="radio"/>	損傷があれば交換	

* : 空欄については点検および交換の必要はありません。

リヤエアサスペンションの締め付けトルク基準値

単位: N·m {kgf·cm}

部品	締め付けトルク基準値
エアサスペンション下部取り付けボルト	16 {163}
レベリングソレノイドバルブ取り付けナット	5.4 {55}
コンプレッサ取り付けナット	33 {337}

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	138
五十音順さくいん.....	144

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

車いすについて



車いすがスロープおよび車内の正しい位置に乗り入れできない

- お使いの車いすが乗車可能な車いすかどうか確認してください。
(→ P.39)
- スロープの耐荷重 200kg 以内で使用してください。 (→ P.38)
- 車いすを車内に乗り入れる前に、シートを調整してください。
(→ P.65)
- 正しい手順で乗り入れているか、確認してください。 → P.67)



車いす固定装置のフックが車いすにかからない

- お使いの車いすが乗車可能な車いすかどうか確認してください。
(→ P.39)
- 車いすを所定の位置まで乗り入れていますか？ (→ P.71 ~ 73, 77)
- 車いすのフレーム形状によっては、車いす固定装置のフックが正しくかけられないときがあります。



車いす用シートベルトが正しく着用できない

- 車いすのアームレスト下側にカバーなどがありますか？ (→ P.103)
- シートベルトの装着手順を確認してください。（車いす前席→ P.96
／車いす後席→ P.98）

車高降下装置について



車高降下中、車高が自動復帰した

- 車高降下中にシフトレバー／シフトポジションを P 以外の位置にしませんでしたか？（→ P.55）



車高切替スイッチを押しても車高が変化しない

- 作動条件をすべて満たしていますか？（→ P.47）
- 短時間にくり返し操作していませんか？（→ P.56）
- ブレーキペダルを踏んでいませんか？（→ P.56）



車高降下速度が遅い、または車高降下が完了しない

- 氷・雪または石などがボデーに接触していませんか？（→ P.56）



車両左側後方から音が聞こえる

- エアサスペンションの作動音です。故障ではありません。（→ P.57）



スイッチを操作しなくても車高がかわった

- オートレベルング機能により車高調整が行われています。（→ P.57）



車高調整インジケーターおよび車高降下装置異常ランプが黄色点灯し、車高降下・復帰が停止した

- 車高降下装置のシステムに何らかの異常が発生しています。すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。（→ P.57）

スロープについて



スロープの引き出し・格納ができない

- スロープの引き出しレール部に異物がないか確認し、異物があるときは清掃してください。（→ P.108）



スロープの前倒れ・起立ができない

- スロープを前倒れにするときは左右の操作レバーを操作してください。（→ P.53）
- スロープの力バーを取りはずしましたか？（床面ロックが起きた状態の場合のみ→ P.53）
- スロープを起こすときは右の操作レバーだけを操作してください。（→ P.54）

車いすの車内への乗り入れについて (セーフティベルト★／電動ウインチ★／車いす固定装置)



固定・解除スイッチを押してもベルトが引き出せない

- 作動条件をすべて満たしていますか？（→ P.47）



車いす乗車の方の足や車いすの後輪が、他の乗員やスロープにあたる

- お使いの車いすが乗車可能な車いすかどうか確認してください。
(→ P.39)
- 車いすを所定の位置まで乗り込ませましたか？
(→ P.71 ~ 73, 77)
- 車いすが左右傾いて固定されていませんか？



車いすを車内に乗り入れたあと、車いすが下がってしまう

- 車いすのブレーキは両輪ともかけられていますか？（→ P.88）
- 作動条件をすべて満たした状態で固定・解除スイッチのインジケーターが点滅していませんか？（セーフティベルト装着車→ P.79 / 電動ウインチ装着車→ P.80）



車いす固定装置が作動しない

- 作動条件をすべて満たしていますか？（→ P.47）



固定・解除スイッチの「固定」を押しても車いすが固定されない・「解除」を押しても車いすの固定が解除されない

- 作動条件をすべて満たしていますか？（→ P.47）



セーフティベルト★または電動ウインチ★のベルトが巻き取れない

- 車いすやベルトが車内のものに引っかかっていたり、ベルトがねじれていませんか？（→ P.87）
- ベルトに雪や雨などが付着したり、ベルトが凍結していませんか？（セーフティベルト装着車→ P.127／電動ウインチ装着車→ P.129）



ワイヤレスリモコンを操作しても、電動ウインチが作動しない（電動ウインチ装着車）

- 周囲の電波状態により上スイッチまたは下スイッチを押しても電動ウインチが作動しなくなることがあります。（→ P.80）
- 電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中に上スイッチまたは下スイッチを押しましたか？（→ P.80）
- 上スイッチまたは下スイッチを断続的に押していませんか？（→ P.80）
- 電池が消耗していませんか？（→ P.128）

故障かな？と思ったら



装置が作動しない

- 各装置ごとの作動条件を確認してください。（→ P.47）

トラブルが発生した



車高降下装置が作動しない

- P.122 のことを確認してください。
作動条件およびヒューズの確認をしても作動しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。



セーフティベルトが引き出せない・後退防止作動しない (セーフティベルト装着車)

- P.126 のことを確認してください。
作動条件およびヒューズの確認をしても作動しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。



電動ウインチが作動しない（電動ウインチ装着車）

- P.128 のことを確認してください。
作動条件およびヒューズの確認をしても作動しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。



ワイヤレスリモコンを紛失した・電池が切れた (電動ウインチ装着車)

- 電池が切れたときは、P.123 の方法で電池を交換してください。
- ワイヤレスリモコンを使わずに車いすを車内外に乗降・固定することができます。（→ P.128）
ワイヤレスリモコンを紛失したときは、トヨタ販売店にご相談ください。



車いす固定装置が作動しない

- P.131 のことを確認してください。
作動条件およびヒューズの確認をしても作動しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

五十音順さくいん

あ

安全なドライブのために	
車いすの固定およびシート	
ベルトの着用について 20	
車いすの車内外への	
乗降について 12	
車両火災・故障・損傷を	
防ぐために 23	

い

インジケーター	
固定・解除スイッチ	
インジケーター（車いす	
前席用) 67, 74, 89, 91	
固定・解除スイッチ	
インジケーター（車いす	
後席用) 69, 74, 89, 91	

え

エアサスペンション 59	
オートレベリング機能 57	

お

お手入れのしかた	
車いす固定装置の清掃 111	
スロープの清掃 108	
ベルトの清掃 110	

か

ガレージジャッキ 112	
--------------------	--

き

緊急時の対処法	
セーフティベルトが引き出せない・	
後退防止作動しないとき 126	
電動ウインチが	
作動しないとき 128	

く

車いす	
車いす乗車の目安 38	
車いすのタイヤ空気圧 38	
重量 38	
乗車可能な車いす 39	
車いす固定装置	
解除 91	
固定 88	
作動しないとき 131	
作動条件 47	
清掃 111	
車いすの車内外への乗降	
車内への乗り入れ位置	
（車いす後席） 73	
車内への乗り入れ位置	
（車いす前席） 73	
車内への乗り入れ位置	
（2名乗り入れ時） 77	
操作の流れ 41	
車いすの車内での固定・解除	
解除 91	
固定 88	
車いす用シートベルト	
車いす後席での着用 98	
シートベルトの構成 95	
車いす前席での着用 96	
電動車いすでの着用 100	
はずし方 101	

こ

工具・ジャッキの取り出し	114
故障かな?とお考えになる前に	
車いす固定装置が	
作動しないとき	131
車高降下装置が	
作動しないとき	122
ヒューズの交換	119
ワイヤレスリモコンの	
電池交換	123
固定・解除スイッチ	
車いす前席用	67, 74, 89, 91
車いす後席用	69, 74, 89, 91

さ

サードシート	
格納	26
もどし方	29
作動条件	47

し

シート	
サードシート	26
セカンドシート	26
室内装備	
収納装備一覧	32
アクセサリーコンセント	34
室内レイアウト	36
締め付けトルク基準値	136
車高降下装置	
作動しないとき	122
作動条件	47
車高降下を途中で	
やめるとき	49
車高降下装置異常ランプ	57
車高調整インジケーター	
	48 ~ 51, 55, 57, 58, 121
車高調整およびスローブ	
の展開・格納	48
車高切替スイッチ	
	41, 44, 49, 51, 55
車高切替モード	
バックドア連動	
車高切替モード	48, 50, 55
マニュアル	
車高切替モード	49, 51, 55
車高復帰忘れ防止機能	55
ジャッキ	112, 114
ジャッキカバートレイ	32
ジャッキの取り出し	114
スローブ	
格納	50
清掃	108
展開	49
前倒れ機構	52

す

スロープ	
内幅	38
耐荷重	38
清掃	108
スロープを使用する前に	
車いす乗車の目安	38
車いすのタイヤ空気圧	38
ご使用前に確認して	
いただきたいこと	36
室内レイアウト	36
重量	38
乗車可能な車いす	39
スロープ内幅	38
路面	37

せ

セーフティベルト	
仮置きバンド	78
車外への降車	74
車内への乗り	
入れ位置	73, 77
手動での引き出し	70
清掃	110
引き出せない・後退防止作動	
しないとき	126
清掃	
車いす固定装置	111
スロープ	108
ベルト	110
セカンドシート	26
前席・後席切替スイッチ	68, 69

そ

走行する前に	105
操作の流れ	
車いすを車外に降ろすとき	45
車いすを車内に乗り入れ・	
固定するとき	41

て

定期点検整備記録簿	巻末
デッキポケット	32
点検・整備項目	
締め付けトルク基準値	136
定期点検整備	134
電動ウインチ	
ウインチスイッチ	66, 72, 76
仮置きバンド	78
作動しないとき	128
作動条件	47
車外への降車	74
車内への乗り	
入れ位置	73, 77
手動での引き出し	70
清掃	110

は

パンクしたとき	
工具・ジャッキの取り出し	114

ひ**ヒューズ**

- エンジンルーム左側 119
助手席足元 120

へ

- ヘッドライト光軸切りかえ機能 58
ベルトの清掃 110

ま

- 万一の場合には
故障かな?と
お考えになる前に 119

ま

- 床面ロック 28, 29

わ**ワイヤレスリモコン**

- 各部の名称 66
使い方 66
電池交換 123

お問い合わせ、ご相談は下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

フリーコール

受付時間についてはホームページにてご確認ください。

https://faq.toyota.jp/?site_domain=default#contact

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
<https://toyota.jp/recall/index.html>にて
掲載しております。

QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。



ウェルキャブ（福祉車両）

<https://toyota.jp/welcab/>



トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

W-01



M 28A24

01999-28A24

IT-2022年1月6日

2022年1月13日 初版

ノア／ヴォクシー

車いす仕様車(スロープタイプI)／
ウェルキャブ 車いす仕様車(スロープタイプI・II)